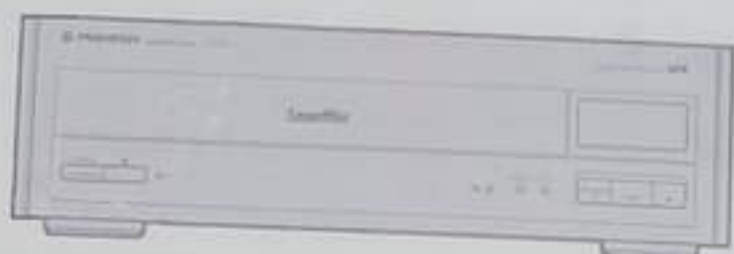


レーザーディスク プレーヤー

LD-S9



パイオニアの製品をお買い求めいただきまして
まことにありがとうございます。

本機の機能を十分に発揮させて効果的にご利用いただく
ために、この取扱説明書を本機ご使用の前に最後までお
読みください。特に、「安全上のご注意」は必ずお読み
ください。

お読みになった後は、「保証書」、「ご相談窓口・修理窓
口のご案内」と一緒に保管してください。使用中にわか
らないことや不具合が生じたとき、きっとお役にたちま
す。

●業務用には対応していません。

目次

安全上のご注意	2
正しく、永くお使いいただくために.....	3
特長.....	4
本機で再生できるディスクについて.....	5
付属品を確かめましょう.....	5
接続のしかた.....	6 ~ 9
各部の名称と働き.....	10 ~ 13
<hr/>	
LDを見るには.....	14 ~ 17
画質とメモリー.....	18
LDグラフィックスを楽しむ.....	20 ~ 21
映画ディスクを楽しむ場合.....	22
<hr/>	
画面だけ止めた通常再生.....	23
再生の速さや向きを変えるには.....	24
静止画/コマ送り.....	25
好きな画面のまま別のディスクを楽しむ.....	26
プレーヤーの選ぶ順番で再生する(ランダム再生).....	27
見たい場面を探す.....	28 ~ 33
早送り・早戻し.....	28
再生の速さと向きをワンタッチで 変える特殊再生で探す.....	29
チャプターの始めだけを連続再生して探す.....	30
チャプターで探す.....	31
フレームナンバーを指定して探す.....	32
タイムナンバーを指定して探す.....	33
繰り返し見る.....	34 ~ 35
見たい場面をプログラムする.....	36 ~ 37
画面表示について.....	38
<hr/>	
故障? ちょっと調べてください.....	39 ~ 41
お手入れ.....	42
用語.....	43
保証とアフターサービス.....	44
仕様.....	45

準備・
接続・
名称

基本
操作

応用
操作

故障?
?




安全に正しくお使いいただくために
絵表示について

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

-  △記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。
-  ⊘記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
-  ●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

安全上のご注意

警告

〔異常時の処置〕

● 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。



● 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



● 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



正しく、末永くお使いいただくために

■再生中は本機を絶対に動かさない

再生中はディスクが高速回転しているため、本機を持ち上げたり動かしたりしないでください。ディスクを傷つける恐れがあります。

■本機を移動する場合

本機を移動したり、引っ越しなどで輸送する場合は、必ずディスクを取り出し、▲ OPEN/CLOSE ボタンを押して、ディスクテーブルを閉じてから、電源ボタンを「切」にし、表示窓の「OFF」が消えてから電源コードを抜いてください。

■設置する場所

- 組み合わせて使用するテレビやステレオシステムの側の安定した場所を選んでください。
- ステレオシステムと一緒に使う場合、スピーカーとモニターテレビは少し離してください。
- テレビやカラーモニターの上に本機を設置しないでください。カセットデッキなど、磁気の影響を受けやすい機器とは離して設置してください。

■その他、次のような場所は避けてください。

- 直射日光のあたる所
- 湿気の多い所や風通しの悪い所
- 極端に暑い所や寒い所
- 振動のある所
- ほこりの多い所
- 油煙、蒸気、熱などがあたる所（台所など）

■重いものを乗せない

本機の上に重いもの（例えばテレビ、アンプ）をのせないでください。

■熱を受けないように

アンプなど、熱を発生する機器の上にのせないでください。ラックに入れる場合はアンプや他のオーディオ機器から出る熱をさけるため、アンプよりできるだけ下の棚（ホコリをかぶらない程度）に入れてください。



■ガラスドア付きラックに入れたときのご注意

ガラスドアを閉めたままリモコンのオープン/クローズボタンを押して、ディスクテーブルを開けしないでください。強い力でディスクテーブルの動きが妨げられると、故障の原因になります。

■結露について

冬季などにプレーヤーを寒いところから暖かい室内に持ち込んだり、プレーヤーを設置した部屋の湿度を加湿などで急に上げたりすると、内部（動作部やレンズ）に水滴が付きます（結露）。結露したままではプレーヤーは正常に動作せず、再生できません。結露の状態にもよりますが、プレーヤーの電源を入れて1~2時間放置し、プレーヤーの温度を室温に保てば水滴が消え、再生できるようになります。夏でもクーラーやエアコンの風が、プレーヤーに直接あたると結露がおこることがあります。その場合はプレーヤーの設置場所を変えてください。



■本機を使わないときは電源を切っておく

テレビ放送の電波状態により、本機の電源を入れたままテレビをつけると画面にしま模様が出る場合がありますが、本機やテレビの故障ではありません。このような場合は本機の電源を切ってください。



静電気等、外部からの影響により本機が正常に動作しない場合があります。このようなときは電源コードを1度抜いて再度差し込むことにより正常に動作します。

特長

■ Yターン方式両面再生

両面再生のレーザーディスクを、裏返さずに両面を連続再生でき、従来のメカニズムに比べ反転時間、再生開始時間やサーチ時間などが大幅に短縮されています。

■ フルデジタルプロセッシングシステム採用

アナログ処理を最小限に抑えて信号処理することにより、劣化のない高画質な映像が得られます。フィールド相関型デジタルビデオプロセッサにより、高解像度と高S/Nを高い次元でバランスさせています。

■ デジタルTBC

映像系のジッター補正回路には、補正範囲が広く、理論的に信号劣化の無いデジタルTBCを採用し、高画質になっています。

■ HR3次元デジタルYC分離回路

従来の3次元YC分離は2画面の比較によりYC分離を行っていましたが、HR3次元では3画面を比較しYC分離を行うため、より高精度なYC分離が可能となりました。結果としてクロスカラーが大幅に低減し、細部の表現力も向上しています。

■ 1ビットDLC D/Aコンバーター

D/Aコンバーターは、デジタル信号をアナログ信号に変換するものです。1ビット方式は、

- 原理的にゼロクロスひずみが発生しない。
- 全帯域にわたって非直線ひずみがない。
- 無調整で高精度が得られる。

などの長所があり、微小信号レベルに至るまで、音楽性を損ないません。

■ ダブルステップ・ノイズシェーピング

1ビット方式に不可欠なノイズシェーピングには、ダブルステップノイズシェーピング方式を採用しています。前段のデジタルフィルター部分でノイズシェーピングを1度行い、さらにD/Aコンバーター部分でもう1度行う方式により量子化ノイズを大幅に抑え込むことができ、高精度な変換を行っています。

■ レガート・リンク・コンバージョン

デジタル録音フォーマットの上限を超える再生を可能にするレガート・リンク・コンバージョンを搭載しました。

レガート・リンク・コンバージョンは、記録された信号を元に、記録前のオリジナル信号を想定して、原音により近い音楽再生を実現します。

■ サブコードデコーダーを搭載

LDの再生に加え、サブコードグラフィックス対応ディスクが楽しめます。シナリオディスクでは、映画の台詞（せりふ）を表示することができ、語学の勉強などに便利です。

■ 3次元デジタルNR

LDのソフトにはノイズが目立つもの、色むらが目立つものなど、もともとディスク（ソース）が持っている画質があります。これらのノイズ、色むらを効果的に低減させる3次元デジタルNRを搭載しました。また、お好みに合わせて輝度（明るさ）と彩度（色）それぞれ独立に効果を可変できます。もちろん、デジタル処理ですから本来のクオリティをなくすことはありません。

■ CLVフィールドコマ送り、戻し

長時間ディスク（CLV）再生時において、フィールド単位のコマ送り、戻しを可能としました。これにより、従来のLDプレーヤーでは見ることができなかったすべてのフィールドを静止画として見ることができます。

■ シアターモード

表示窓および画面表示を消灯し、またディスクの面が変わるときは画面は黒になります。再生開始時間や反転時間が通常再生時より短縮され、映画ディスクを見るのに最適です。

■ デジタル出力端子付き

光出力と同軸デジタル出力を装備しました。

■ AC-3・RF 出力端子付き

本機は、ドルビー・AC-3 Dolby Digitalに対応しています。AC-3・RF入力のあるアンプやサウンドプロセッサと接続し、ドルビーAC-3対応LDソフトを使用すると、5.1chデジタルサラウンド音声を楽しむことができます。

*ドルビー、DOLBY、AC-3およびダブルD記号はドルビーラボラトリーズライセンスングコーポレーションの商標です。

こんなことができます

■ 24曲プログラム再生

好きな曲を好きな順序で24曲まで予約再生できます。両面再生のレーザーディスクでは、両面を自由に予約再生できません。

■ 豊富なリピート再生機能

繰り返したいポイントに戻るメモリーリピート、指定した2点の間を繰り返し再生するA-B（2点間）リピート、1つのチャプターだけを繰り返し再生するチャプターリピート、ディスクの片面を繰り返し再生する片面リピート、ディスクの両面を繰り返し再生する両面リピート、プログラム再生を繰り返すプログラムリピート、ランダム再生を繰り返すランダムリピート（TOC付きディスクのみ可能）再生ができます。

■ 特殊再生機能

映像回路の8ビットデジタルメモリーの搭載により、長時間ディスク（CLV）でも高画質で多彩なトリックプレイが楽しめます。

■ ランダム再生

プレーヤーがチャプターの再生順序を無作為に選んで全曲を再生します（TOC付きディスクのみ可能）。

■ イントロスキャン

チャプターの始めの部分を約8秒間ずつ順番に再生します。

■ つづき再生機能

レーザーディスクを途中まで見て、その後つづきから再生することができます。

本機で再生できるディスクの種類

本機は、レーザーディスクプレーヤーです。

- 下表に表示されたマークはディスクのレーベル、またはジャケットに付いています。



再生できるディスクの種類とマーク	大きさ/再生面	最大再生時間
レーザーディスク 	LD 30 cm / 両面	CAV 1時間
		CLV 29時間
	LD 20 cm / 両面	CAV 26分
		CLV 40分
LD CD VIDEO  (LDグラフィックス)	LDシングル 20 cm / 片面	CAV 14分
		CLV 20分

上記以外は再生できません。

(例) CD、CDV、VIDEO SINGLE DISC、ビデオCD、CD-ROM、LD-ROM、ハイビジョンLD等

本機はNTSC (日本のテレビ方式) に適合しています。他のテレビ方式 (PAL、SECAM) のディスクは使用できません。

ディスクの持ちかた

両手で持つ場合 ディスクの両端をはさんで持つ。	
片手で持つ場合 中央の穴と外周部に指をかけて持つ。	

注意

紙などを貼らない。
ディスク面に触れない。



ひびやそりのあるディスクは絶対に使わない
ディスクはプレーヤー内で高速回転します。ひびがはいってしまったディスクや大きくそってしまったディスク、接着力等で修復されたディスクは危険です。絶対に使用しないでください。また、レコードスプレー、静電気防止剤等は、ひび割れの原因になりますので使用しないでください。



■ディスクの保管

- ディスクは従来のアナログレコードと同様プラスチック製です。そらないように注意し、必ずケースに入れ、直射日光や高温多湿の場所、極端に温度の低い場所を避けて垂直に保管してください。車のシートの上なども予想以上に高温となりますので、置かないでください。
- ディスクに付いている注意書は必ずお読みください。

付属品を確かめましょう

梱包を解いたら、まず次の付属品がそろっているかを確かめてください。

- リモコン/単4形乾電池 (R03) (2本)



- オーディオコード (1本)



- ビデオコード (1本)



- 取扱説明書
- 保証書
- ご相談窓口・修理窓口のご案内
- 安全上のご注意

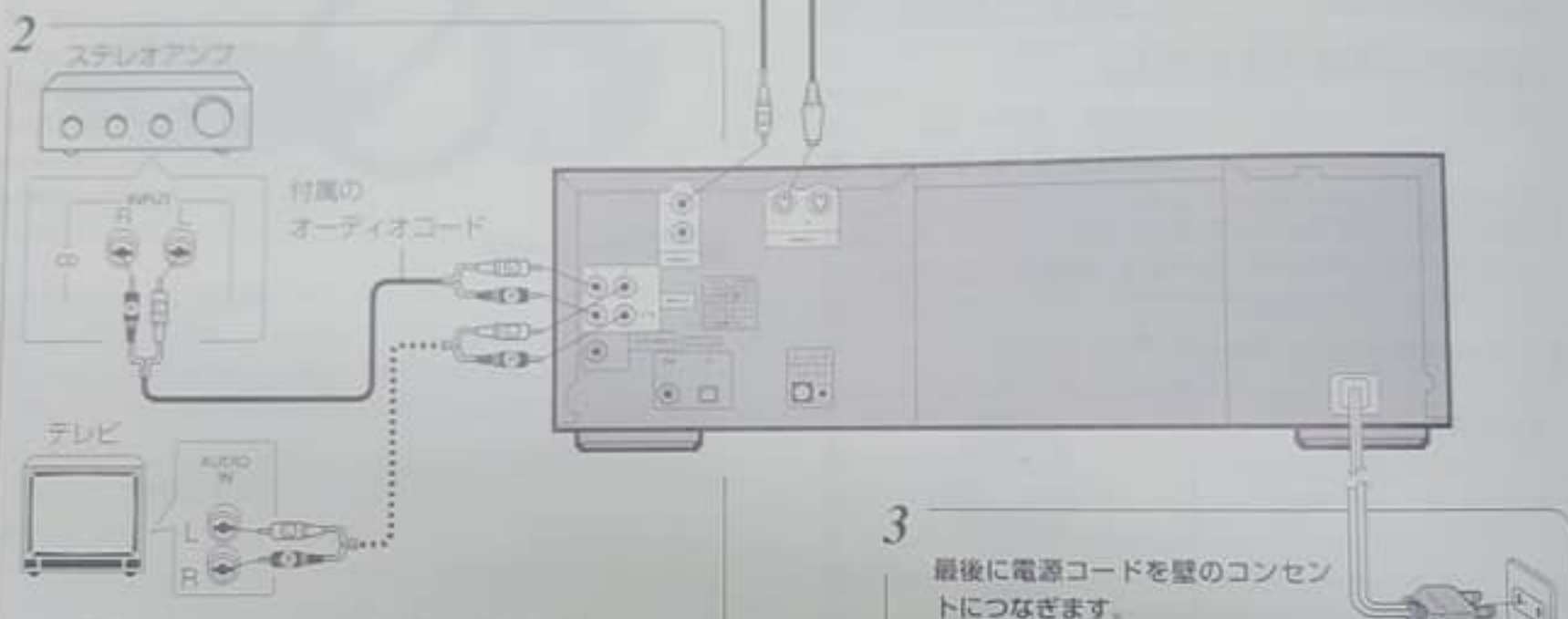
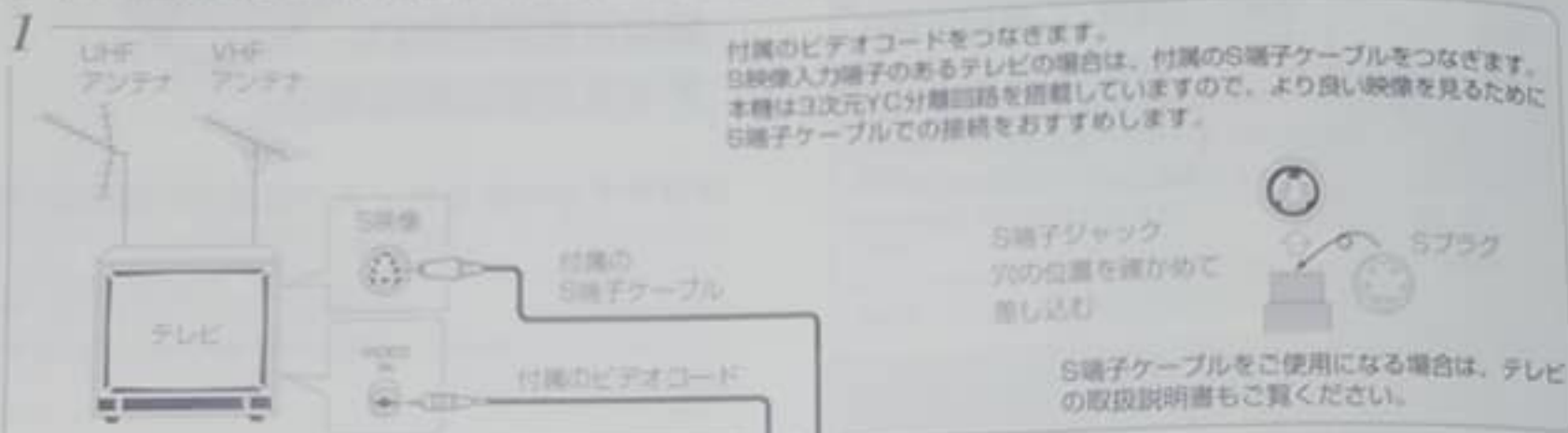
- S端子ケーブル (1本)



接続のしかた

基本的な接続のしかた

- 映像/音声入力端子のあるAVテレビ（またはモニターテレビ）を使用します。



付属のオーディオコードで、ステレオアンプのAUX、
CD、LD、VDPなどの入力端子と接続します。
(PHONO入力端子には絶対に接続しないでください。)

テレビの音声入力端子につなぐこともできますが、
より良い再生のためにステレオアンプとの接続をお
すすめします。

電源コードがつかないであれば、電源スイッチをオフにし
てもプレーヤー内部のメモリー（つづき再生機能など）
には電気が供給されています。このため、必ず壁の電源
コンセントにつないでください。アンプの予備電源コン
セントSWITCHED OUTなどにつなぐと、つづき再生
機能などが働きません。

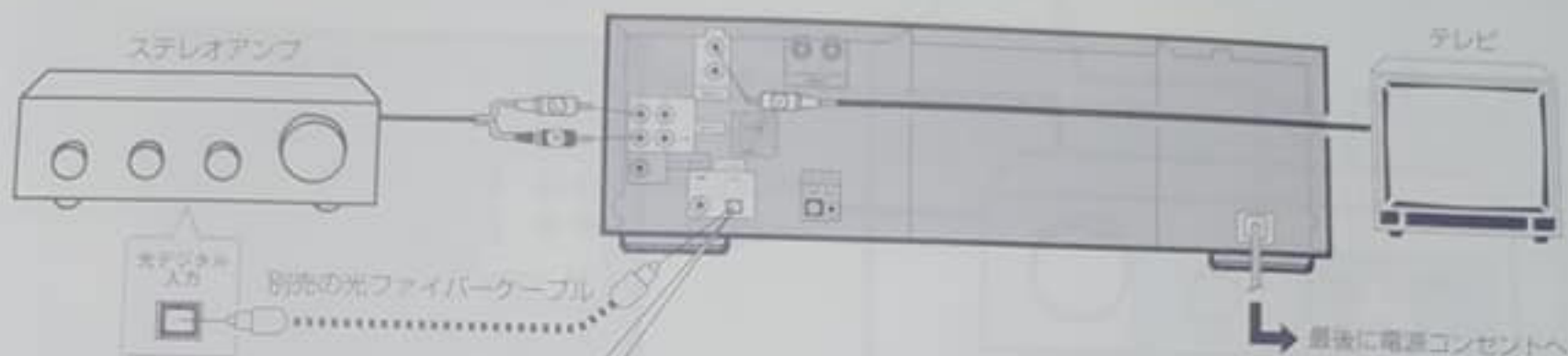
こんな接続もできます

- 光デジタル入力端子または同軸デジタル入力端子をもつステレオアンプをお持ちの場合・P.7
本機のデジタル出力（光または同軸）との接続ができます。
- パイオニアのAC-3・RF入力のあるAVアンプをお持ちの場合・P.8
本機のAC-3・RF出力端子と接続ができます。
- パイオニアHi-Fiプロジェクションテレビをお持ちの場合・P.9
本機のコントロール端子と接続して、システムリモートコントロールをすることができます。
- パイオニアのマーク付きのAVアンプをお持ちの場合・P.9
本機のコントロール端子と接続して、システムリモートコントロールをすることができます。

デジタル出力端子の接続

光デジタル出力端子の接続のしかた

- 光デジタル入力端子のあるステレオアンプと接続します。
- 別売の光ファイバーケーブル (JLL-207 (長さ0.75 m)、JLL-215 (長さ1.5 m) など) を使います。
(本機と同じタイプの光送信/受信モジュールを使用しているケーブルだけが接続できます。)



- 1 防塵キャップを引きぬきます。
(キャップは大切に保管してください)
- 2 ケーブルのプラグを端子の形に合わせ、奥までしっかり差し込みます。

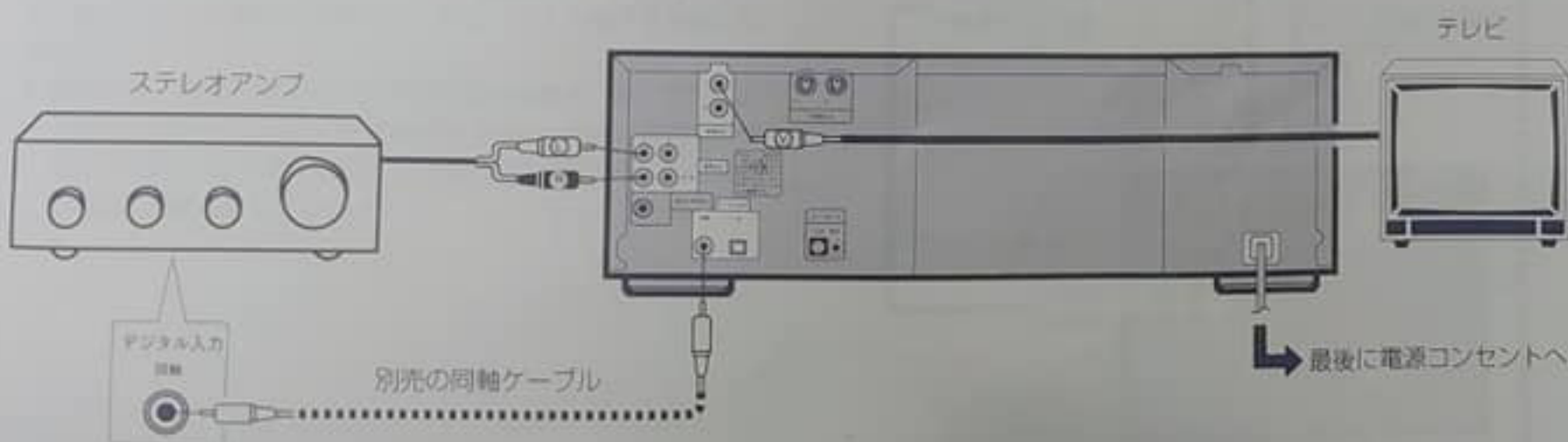
光デジタル出力端子からは、ディスクのアナログ音声は出力されませんので、付属のオーディオコードも接続してください。

光ファイバーケーブル取扱上の注意

- 接続するときは奥まで完全に差し込んでください。
- 絶対に折り曲げないでください。輪にして保管するときは、直径が15 cm以上になるようにしてください。
- 長さ3 m以下のものを使用してください。
- プラグに傷やほこりがかからないように注意してください。
- 光ケーブルに接続しないときは、光デジタル端子に防塵キャップを差し込み、ほこりが付かないようにしてください。
- 防塵キャップはなくさないように大切に保管してください。

同軸デジタル出力端子の接続のしかた

- 同軸デジタル入力端子のあるステレオアンプと接続します。



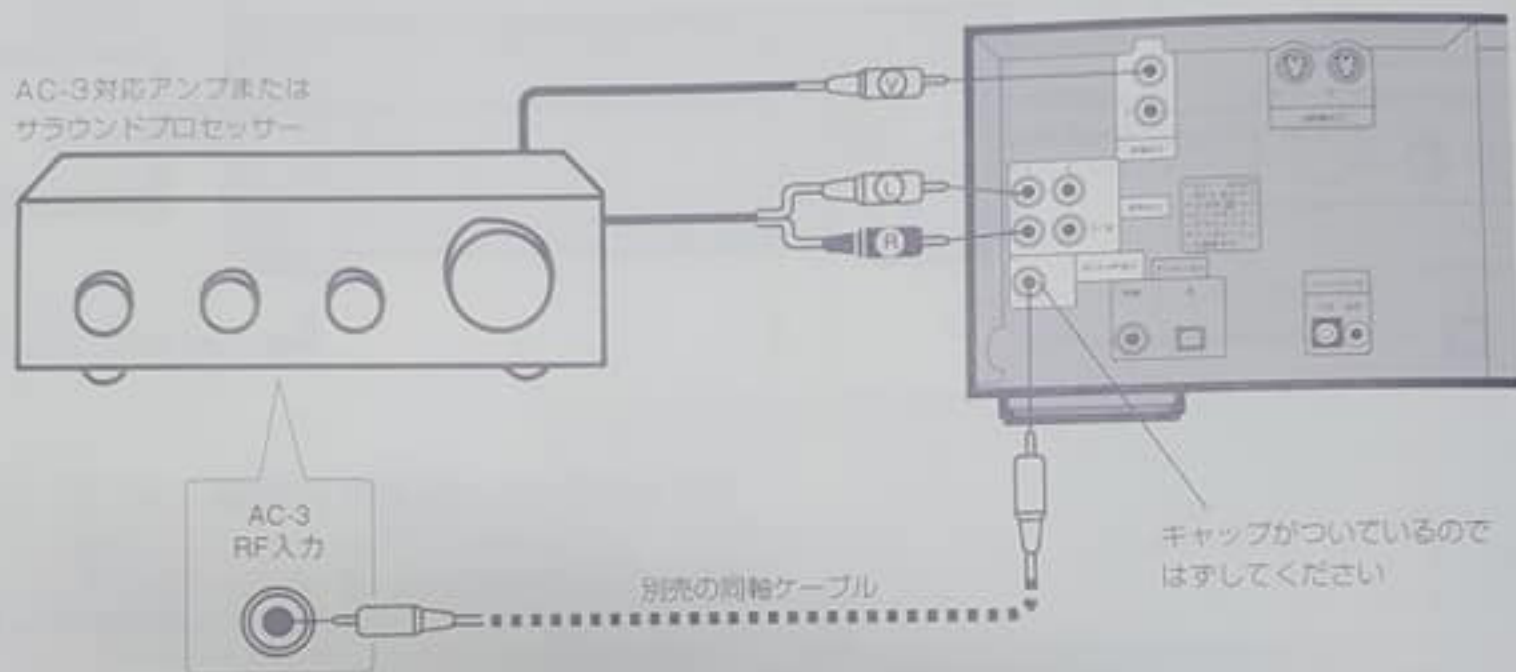
AC-3・RF出力端子の接続

- AC-3・RF入力端子のあるアンプまたはサラウンドプロセッサと接続します。

AC-3・RF出力端子について

AC-3 (デジタルマルチ音声フォーマット) 対応の出力端子です。AC-3・RF入力のあるアンプやサラウンドプロセッサと接続し、ドルビーAC-3対応のLDソフトにより再生できます。

- ドルビーAC-3に対応していないLDソフト、AVアンプ等では再生できません。
- 通常のステレオアンプ、AVアンプ等の音声入力端子には接続しないでください。



- RF入力がないAC-3入力端子には接続できません。

システムリモートコントロールするための接続

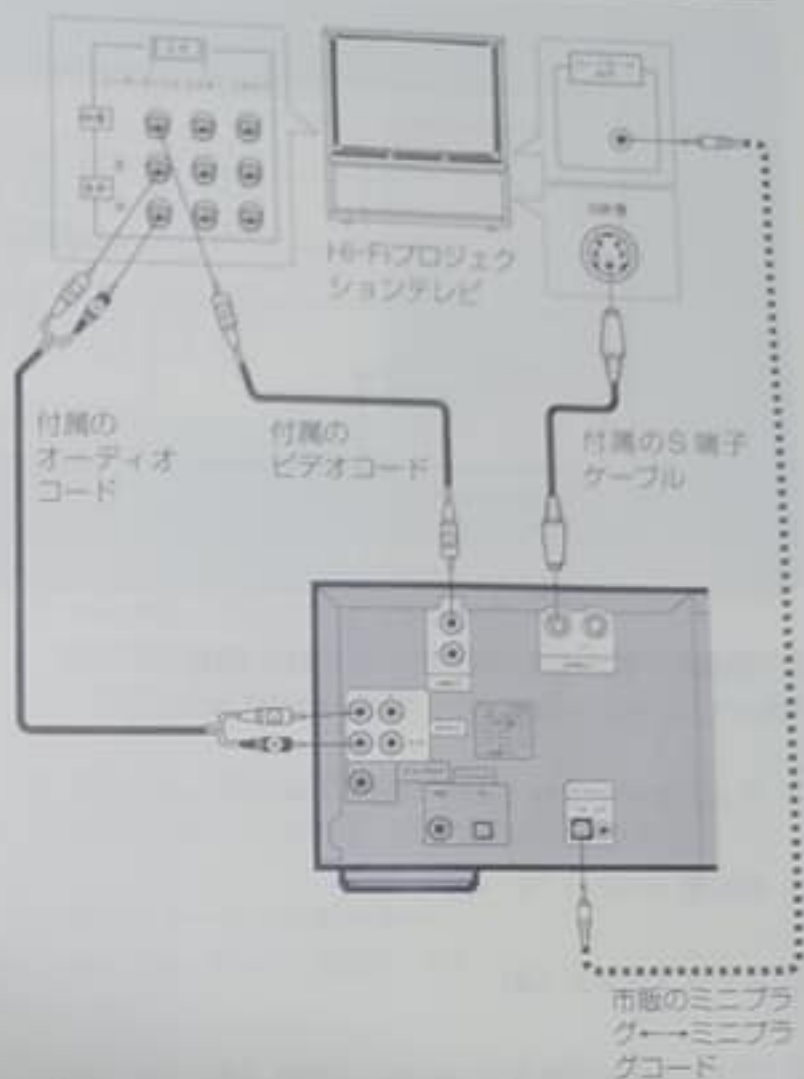
● パイオニアHi-Fiプロジェクションテレビと組み合わせる場合

本機の映像出力端子とテレビのレーザーディスク・映像入力端子を接続し、本機の音声出力端子とテレビのレーザーディスク・音声入力端子を接続します。

本機のコントロール入力端子とテレビのコントロール出力端子を接続します。本機のリモコンをテレビのリモコン受光部に向けて操作すると、システムリモートコントロールができます。

テレビの取扱説明書もご覧ください。

- 接続には市販のミニプラグ→ミニプラグコード（抵抗なし）を使います。
- システムリモートコントロール接続をすると、本機は直接にはリモコンを受け付けません。リモコンはテレビのリモコン受光部に向けて操作してください。



準備・接続・名称

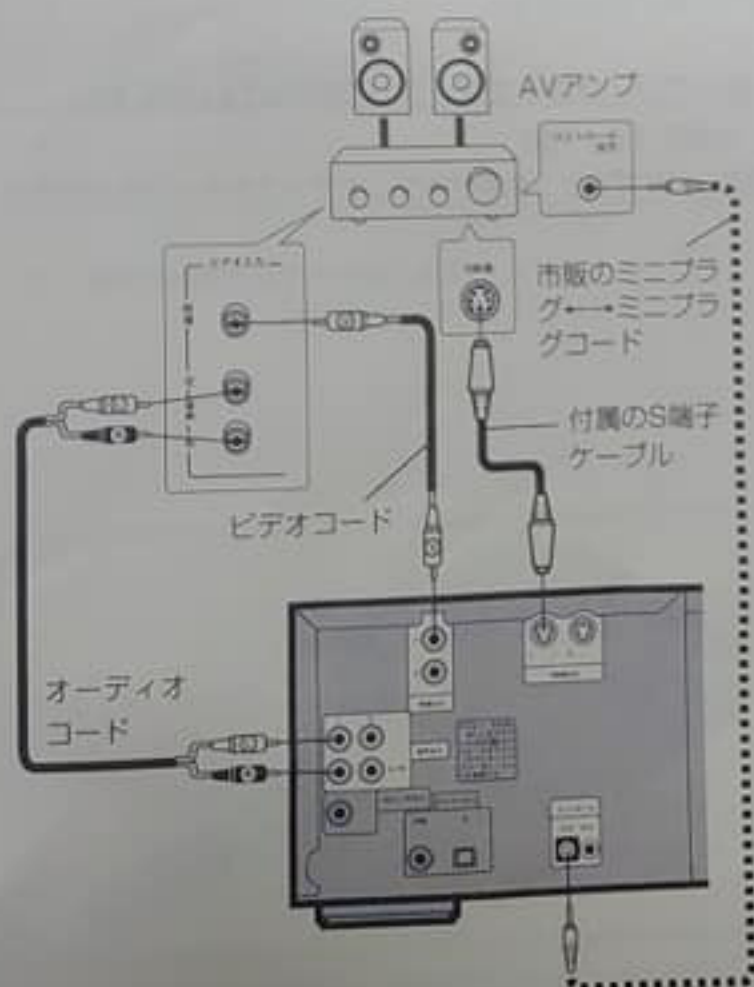
● パイオニアのマーク付きの機器と組み合わせる場合

マーク付きのパイオニア製品を集中コントロールできるAVアンプ（別売）と組み合わせると、システムリモートコントロールができます。

本機の映像出力端子をAVアンプのビデオディスク・映像入力端子に、音声出力端子をAVアンプの音声入力端子にそれぞれ接続します。

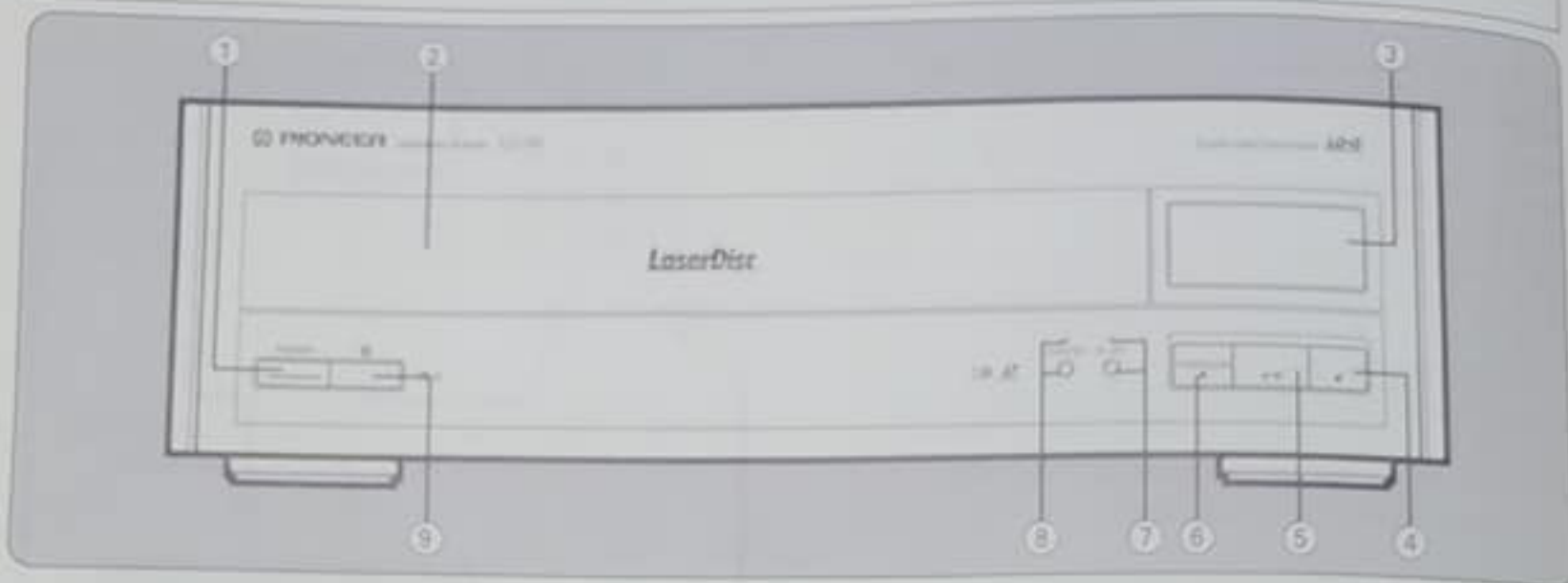
市販のミニプラグ→ミニプラグコード（抵抗なし）でAVアンプのコントロール出力端子と本機のコントロール入力端子を接続します。

- 接続方法、操作方法はAVアンプの取扱説明書をご覧ください。
- システムリモートコントロール接続をすると、本機は直接にはリモコンを受け付けません。リモコンはAVアンプのリモコン受光部に向けて操作してください。



各部の名称と働き

前面部



① 電源スイッチ (POWER STANDBY/ON)
電源をオン/オフ (スタンバイ) するときに押します。

② ディスクテーブル (⇒P. 15)

③ 表示窓 (⇒P. 11)

④ ストップボタン (■)

⑤ プレイ/ポーズボタン (▶||) (⇒P. 15, 16, 25)
電源オフ時に押すと、ディスクテーブルにディスクがある場合、電源が入り再生を始めます。

⑥ オープン/クローズボタン (OPEN/CLOSE ▲)
(⇒P. 14, 16)

電源オフ時に押すと、電源がオンしてディスクテーブルが開きます。

⑦ FL表示オフボタン/インジケータ (FL OFF)
ボタンを押すとボタンの上のインジケータが点灯して、表示窓の表示を消します。表示を消すことにより、微かな雑音が目覚めに与える影響を防止します。もう一度押すともとに戻ります。

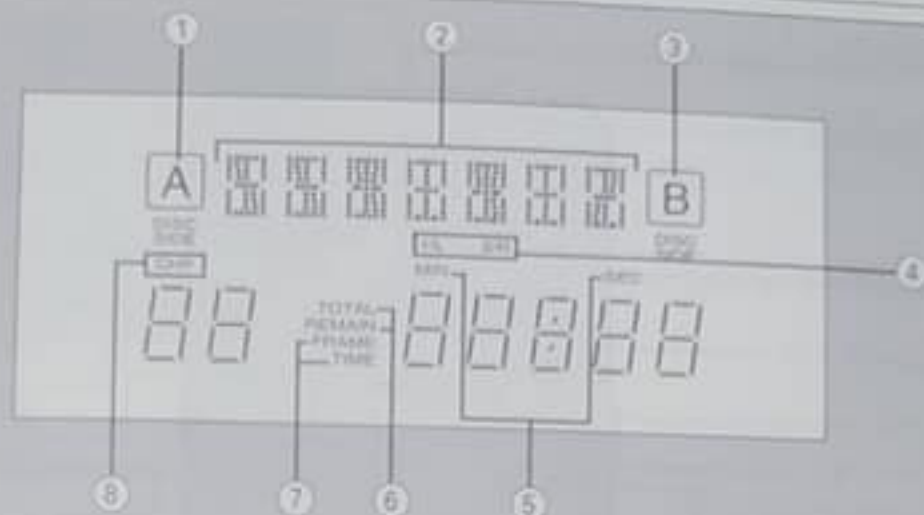
⑧ シアターボタン/インジケータ (THEATER)
(⇒P. 22)

映画ディスクを見るときに、お好みによってオンしてください。シアターオンでは

- 表示窓の表示は消えます。FL表示オフボタンでオン/オフできます。
- 画面表示 (表示内容⇒P. 38) は出なくなります。
- ディスクのサイド (面) が変わるとき、通常、画面はメモリーされた画面になりますが、シアターモード時は黒画面になります。
- TOCありディスクの場合、TOCを読み込まないため映像が出るまでの時間と反転時間が短くなります。(⇒P. 22)

⑨ リモコン受光窓 (⇒P. 11)

表示部



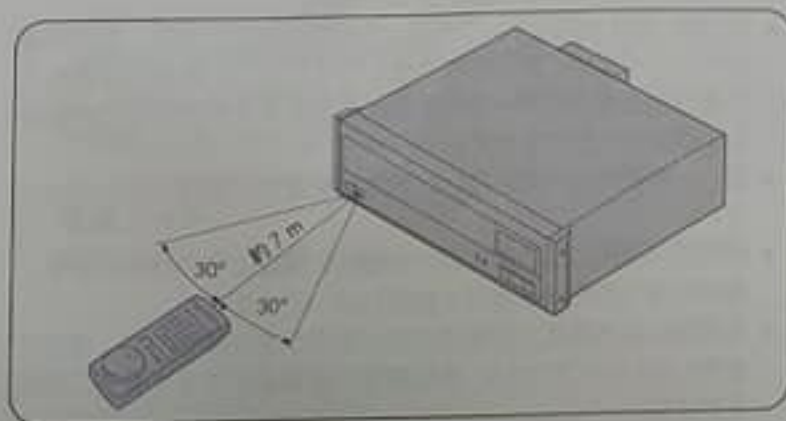
- ① サイドAインジケータ
- ② 機能・動作表示インジケータ
操作した機能や動作を表示します。表示内容は、各機能説明の中にあります。
- ③ サイドBインジケータ
- ④ L/R左チャンネル、R/R右チャンネルインジケータ
音声出力するチャンネルを表示します。
- ⑤ MIN・SECインジケータ
演奏時間を分(MIN)、秒(SEC)で表示します。
- ⑥ トータル/リメインインジケータ
残り演奏時間(REMAIN)または演奏面の総演奏時間(TOTAL)を表示します。
- ⑦ フレーム/タイムインジケータ
フレームナンバーまたは、経過時間を表示します。
- ⑧ チャプターインジケータ
チャプターナンバーを表示します。

リモコンの操作範囲

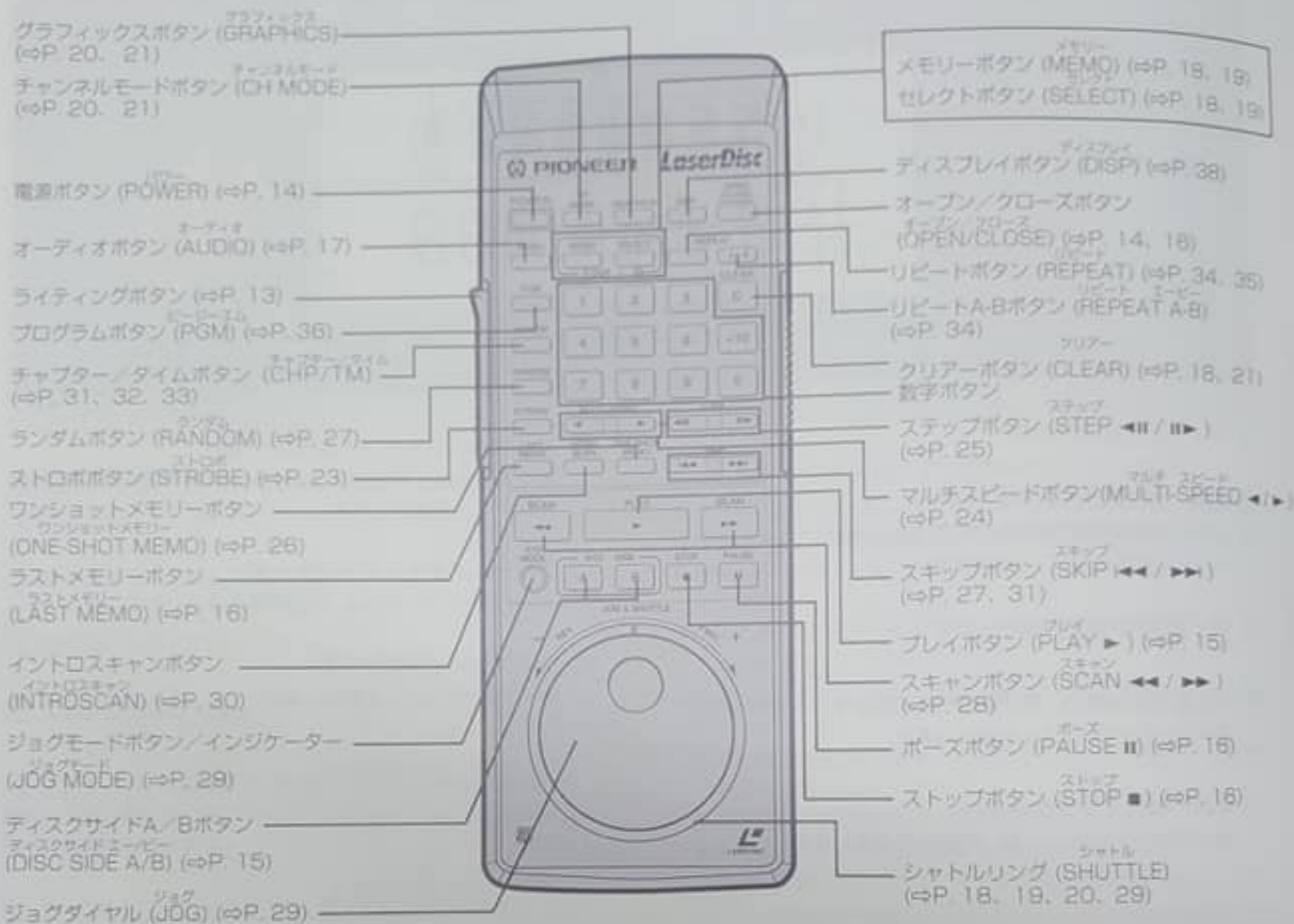
リモコンはプレーヤー前面部のリモコン受光窓に向けて操作します。プレーヤーからリモコンの距離は7m以内、またリモコン受光窓を基準にして左右30°までの範囲で操作できます。

- リモコン受光窓に直射日光や蛍光灯などの強い光が当たると、誤動作することがあります。
- 背面のコントロール入力端子がAVサラウンドアンプやHi-Fiプロジェクションテレビに接続されている場合は、AVサラウンドアンプまたはテレビのリモコン受光窓に向けて操作してください。(⇒P.9) 本機に向けては操作できません。
- リモコンが操作可能範囲で操作されていても、間に障害物があったり、角度が悪いとリモコン操作ができない場合があります。
- 赤外線の出る機器の近くで本機を使用したり、赤外線を使ったリモコン装置を使用すると本機が誤動作することがあります。また、赤外線信号によってコントロールされる他の機器が本機のリモコンによって誤動作することがあります。誤動作の起きないよう、設置場所を変えてください。
- リモコンの上に本などを置かないでください。ボタンが押され続

け、電池が消耗することがあります。



リモコン



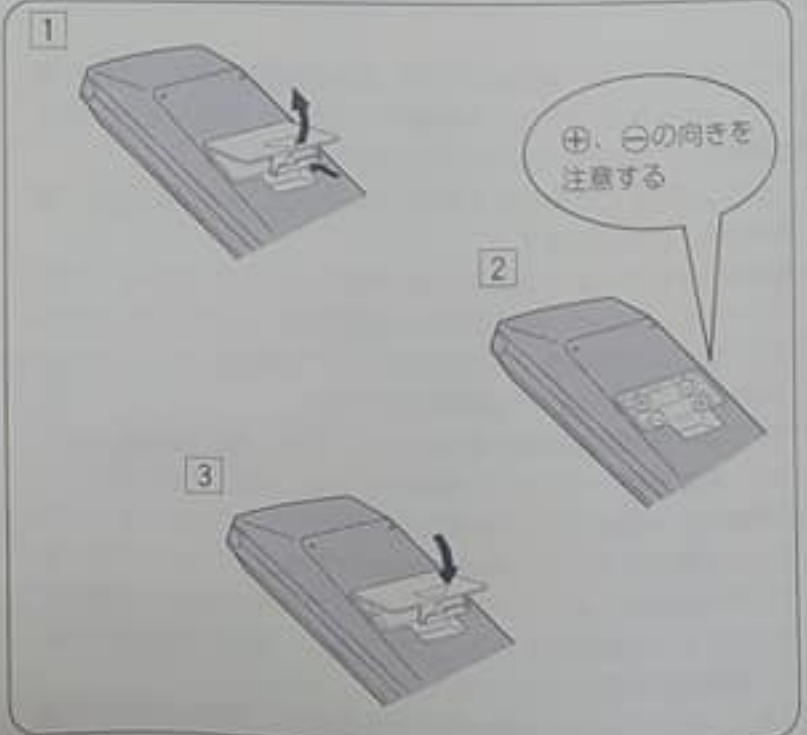
リモコンに電池を入れる

- 1 裏面のふたを開けます。
- 2 +, -の向きに注意して電池をはめ込みます。
- 3 ふたを閉めます。

⚠ <電池についてのご注意>

乾電池は、誤った使い方をすると液漏れや破裂などの危険があります。次の点について特にご注意ください。

- 長い間（約1ヶ月以上）リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出してください。液漏れが起きたときは、ケース内に付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
- 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池には同じ形状のものでも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池には充電式と充電式でないものがありますので、まぜて使用しないでください。また電池の注意表示をよく見てご使用ください。



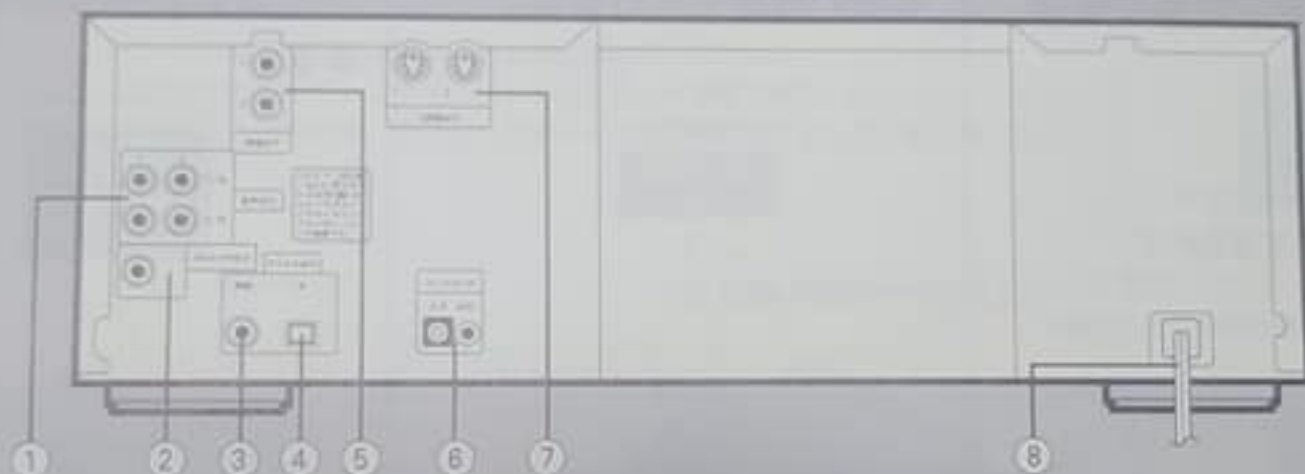
ライティングボタンについて



- ライティングボタンを押すと光線に照らした部分が約3秒間点灯します。
- 電池が消耗すると、光が弱くなります。またリモコンの操作範囲もせばまりますので、新しい電池と交換してください。

*注
ジョグモードボタンは、ライティングボタンとは関係なく、押すたびに点灯します。

後面部



① 音声出力1、2端子

テレビのLDやステレオアンプのLD、CDなどの入力端子と接続します。PHONO端子には接続しないでください。(音声出力は、1/左と2/右を1組として使用します。本機の出力は2系統あります。)

② AC-3・RF出力端子

AC-3 (デジタルマルチ音声フォーマット) 対応の出力端子です。AC-3・RF入力のあるアンプやサラウンドプロセッサと接続し、ドルビーAC-3対応のLDソフトにより再生できます。

- ドルビーAC-3に対応していないLDソフト、AVアンプ等では再生できません。
- 通常のステレオアンプ、AVアンプ等の音声入力端子には接続しないでください。

③ 同軸デジタル出力端子

ステレオアンプに「同軸」入力端子がある場合にこの端子と接続します。光出力と同様にデジタル音声信号をデジタルのまま同軸出力します。


④ 光デジタル出力端子

ステレオアンプに「光」入力端子がある場合は、この端子と接続します。デジタル音声付きLDを再生すると、音声信号をデジタルのまま光出力します。

⑤ 映像出力1、2端子 (ピンジャック)

テレビまたはAVアンプのビデオ入力端子と接続します。(出力は2系統あります。)

⑥ コントロール入力/出力端子

パイオニアの  マークの付いた他の製品と組み合わせてシステムコントロールする場合、コントロールコードを接続する端子です。

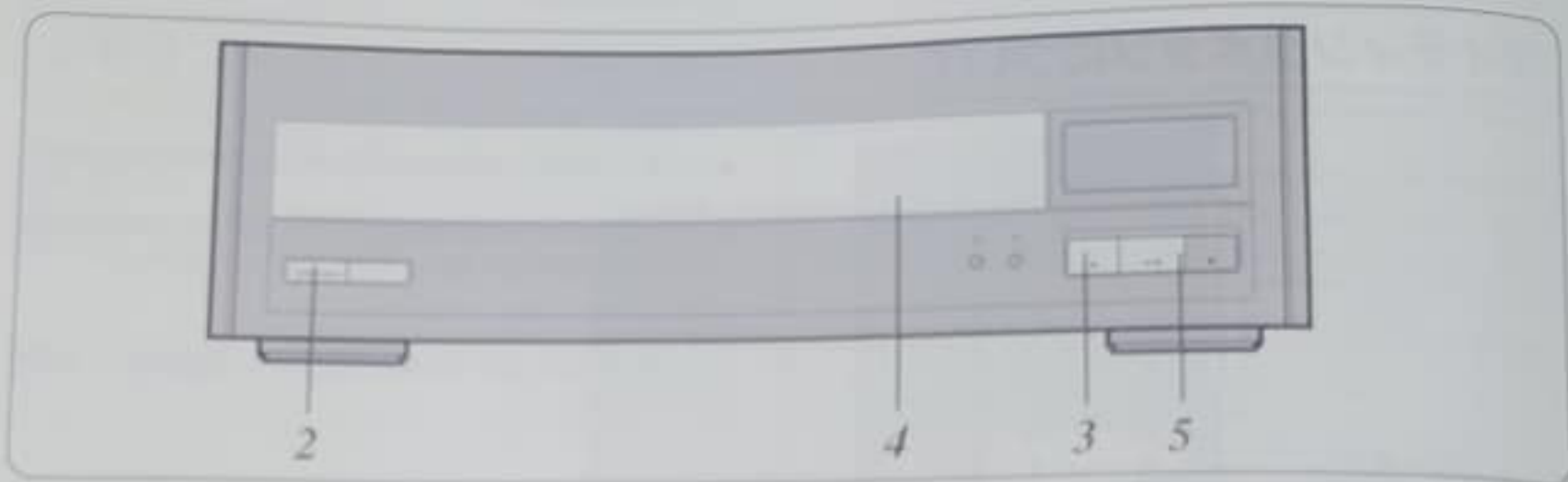
⑦ S映像出力1、2端子


S映像入力端子付きAVテレビやモニターテレビに接続します。(出力は2系統あります。)
S映像端子は映像のみの信号です。オーディオコード (音声出力1、2端子) の接続も必要です。また、映像出力 (ピンプラグ) を併用してもかまいません。

⑧ 電源コード

電源コンセント (AC 100V、50/60 Hz) につなぎます。

LDを見るには



 マークがリモコンの操作です。

1
テレビやAVシステムの電源を入れます。

画面を見るためには：

テレビのビデオ入力を選びます。

AVシステムで再生するときは：

アンプの電源を入れ、入力切り換えスイッチを「LD」など、本機を再生できる位置にします。

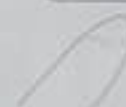
2
本機の電源を入れます。



または



3
ディスクテーブルを開けます。



または



再生中の表示窓には：



チャプターナンバー

タイムナンバー (分/秒または分のみ)
またはフレームナンバー

ピクチャーストップコードの記載されているLDで、ピクチャーストップ機能をキャンセルするには：
プレイ/ポーズボタンを2秒間押し続けます。(24ページ)

便利な機能

電源がオフ(スタンバイ) のとき、本体のオープン/クローズボタン (▲) を最初に押すと、電源が入り、ディスクテーブルが出てきます。(オートパワーオン機能)



A面、B面を指定して再生するには：

A面とはディスクテーブルにのせたときの上面を指し、B面は下面を指します。ディスク自体に記録されたA面、B面とは異なります。たとえば、SIDE Aと書かれたレーベル面を上にして置きA面だけを再生するには、プレイポーズボタン (▶||) を押さずにディスクサイドAボタンを押します。A面の再生後、停止します。B面だけを再生するには、プレイポーズボタン (▶||) を押さずにディスクサイドBボタンを押します。B面の再生後、停止します。SIDE Bと書かれたレーベル面を上にして置くと、AボタンでB面、BボタンでA面を再生します。

面が変わるときの表示窓

● A面からB面へターン中

A面
B面

● B面からA面へターン中

A面
B面

4

ディスクを置きます。

図のようにディスクそれぞれのサイズの溝にそって正確に置いてください。

- ディスクテーブルの溝からずれてディスクをセットすると正しく演奏できないばかりが、ディスクを傷つけたり故障の原因となります。それぞれのディスクサイズの溝にそって正確に置いてください。

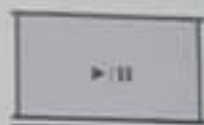


LD: 見たい面のレーベルを上



5

再生を始めます。



または



A面の終わりまで再生すると自動的にB面へターンします。

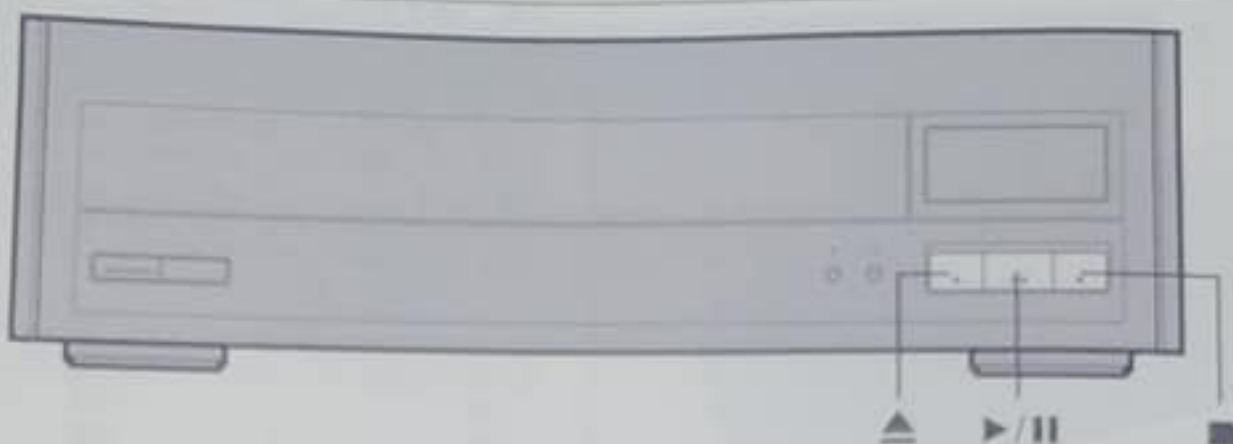
ディスクセットのご注意

- ディスクは1枚だけセットしてください。2枚重ねてセットするとディスクを傷つけたり故障の原因になります。
- LDの片面ディスクは、必ずレーベル面を上にしてセットしてください。

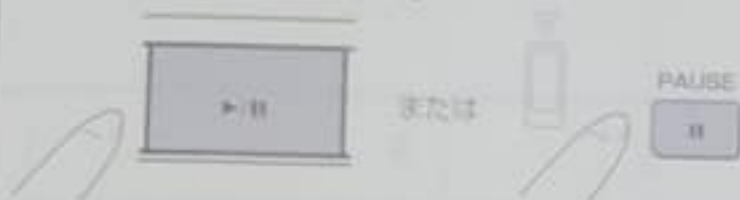
⚠ 注意

故障や事故を避けるため、次のことに特にご注意ください。

- ディスク以外のものをディスクテーブルにのせないでください。
- 再生中に本機を動かさないでください。ディスクを傷つけてしまいます。
- ディスクテーブルが引き込まれるときに指をはさまないように注意してください。また、小さなお子様はディスクテーブルを開けて中に手を入れないように注意してください。けがをする場合があります。



再生を一時止めるには



静止画になります。

- もう1度プレイ/ポーズボタン (▶/||) またはポーズボタン (||) を押すと、止めたところから再生が始まります。

ご注意:

プレーヤーは一時停止 (PAUSE) 状態にしてもディスク回転用のモーターは回転しています。モーターの寿命を縮める原因となりますので一時停止状態のまま長時間放置しないでください。

再生を止めるには



再生を止めたあとでプレイ/ポーズボタン (▶/||) またはプレイボタン (▶) を押すと、ディスクの始めから再生が始まります。

再生を止めてディスクを取り出すには



ディスクを取り出したらオープン/クローズボタン (▲) またはプレイ/ポーズボタン (▶/||) を押してディスクテーブルを閉めます。

LDをつづきから再生するには

一つづき再生 (ラストメモリーモード)

ストップボタン (■) または電源スイッチを押して、LDの再生を終了すると、再生を終了したアドレスがメモリーされます (ラストメモリー)。ディスクを入れたままにしておくと、電源をオフにしてもメモリーされたアドレスは消去されません。再び電源を入れて、ラストメモリーボタンを押すと、つづき再生が始まります。

直接つづきから再生する場合:



リモコンのラストメモリーボタンを1回押します。メモリーされたアドレスの少し前の位置から再生が始まります。

あらすじを見てから再生する場合:



リモコンのラストメモリーボタンを2回続けて押します。見ていた面の初めからあらすじ再生 (少し再生して少し飛ばす動作の繰り返し) した後、メモリーされたアドレスの少し前から再生が始まります。

また、あらすじ再生中にラストメモリーボタンを押すと、あらすじ再生を中止してメモリーされたアドレスの少し前から再生が始まります。

ご注意

- B面再生中に停止した場合、あらすじ再生はB面から始まります。
- ディスクテーブルを開けるとメモリーされたアドレスは消去されるので、つづき再生する場合はディスクは入れたままにしてください。
- 電源コンセントを抜くとメモリーされたアドレスは消去されます。

◎マーク付きのLDについて

◎マークの付いたLDでは、CXノイズリダクションシステムにより、雑音の少ない音を再生することができます。

◎マーク付きのディスクの中には、CXシステムを自動的に入・切するコードが記録されていないものがあります。この場合は、リモコンのオーディオボタンを押してCXオンにしてください。(画面表示にCX ONと表示させていただきます。)

- ◎はCBSの商標です。本機はCXの伸張仕様に適合します。
- ◎はLDのアナログ音声に対して機能します。

ポーズタイマーについて

長時間、静止画状態のままにしておくと、モーター寿命を縮める原因となりますので、約20分間静止画状態が続くと自動的に停止します。

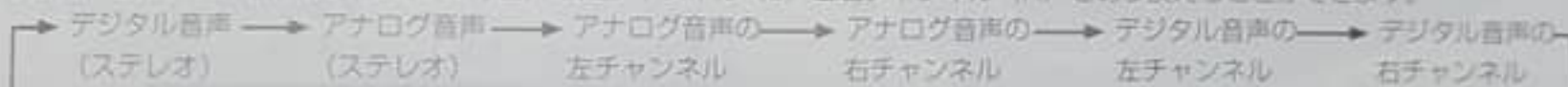


再生中にオーディオボタンを押すことに、音声切り換わります。たとえば…

- デジタル音声付きディスクのアナログ音声を聞く。
- ステレオディスクの片チャンネルだけを聞く。
- 音声多重ディスクの音声を選ぶ。

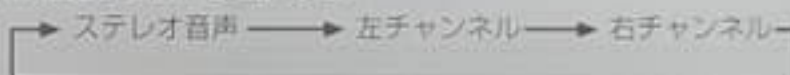
デジタル音声入りLDの場合

デジタル音声とアナログ音声およびステレオ音声の左チャンネル (L) と右チャンネル (R) を切り換えることができます。

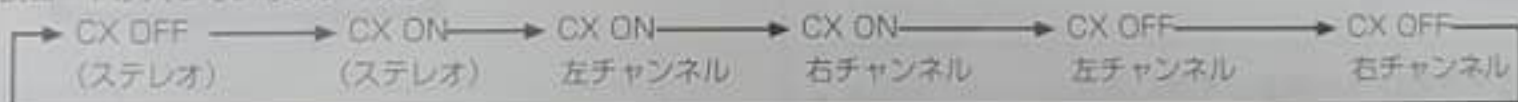


アナログ音声のみLDの場合

- トルビーAC-3対応のLDでアナログ音声の右チャンネルを選ぶと音声は出ません。
- CX自動切換コードが入っているディスク



- CX自動切換コードが入っていないディスク



マルチオーディオディスク (MULTI AUDIO マークと MULTI AUDIO 表示付きLDまたは MULTIAUDIO マーク付きLD) では、オーディオボタンで選ぶデジタル/アナログと、デジタルおよびアナログでの1/L、2/Rチャンネルを組み合わせていろいろな楽しみかたができます。

音声仕様の具体例

ディスク	音声	アナログ音声	デジタル音声
映画・アニメなど		本編の音声	サウンドトラック
デュアルミュージック		ミュージック1	ミュージック2
デジタル音声多重カラオケ		1/L カラオケ (モノラル) 2/R アシスタントボーカル	ステレオカラオケ
ステレオ・バイリンガル (二カ国語)		日本語	第一外国語

ディスク	音声	アナログ音声	デジタル音声
トリリンガル (三カ国語)		日本語	1/L 第一外国語 2/R 第二外国語
クワッドリンガル (四カ国語)		1/L 日本語 2/R 第一外国語	1/L 第二外国語 2/R 第三外国語

画質調整とメモリー

画質調整

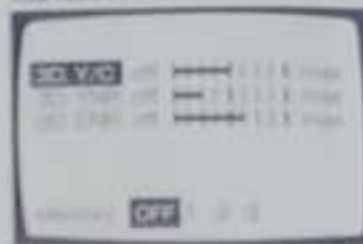
■ 調整項目

- 3D. Y/C** : Y/C分離の2次元 (off) ~ 3次元 (max) を選択し (5段階出力のみ) ます。offでは動きの早い映像でのクリアー感が重視され、maxでは動きの少ない映像でのクリアーカラーが強調されます。
- 3D. YNR** : 輝度信号のノイズ低減効果を調整します。
- 3D. CNR** : 色信号のノイズ低減効果を調整します。

- 静止画の画質調整はできません。



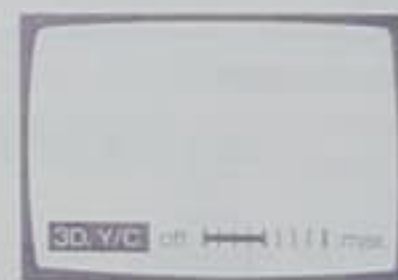
選択画面



- 2 シャトルリングを回します。
選択されている項目の設定値が変化します。



- 選択画面では何も操作しないと、約5秒たつと選択中の項目のみを画面下に表示します。このように、画面が見やすくなりますので、映像を見ながらの微調整が必要なときは、この状態で行ってください。



■ 調整のしかた

1 ビデオセレクトボタンを押します。

- 1回押すと右上のような画面表示になります。
- 選択されている項目は反転文字になります。
- 表示中に続けて押すと選択項目が移ります。



3 画質調整モードを終了します。

- 終了するには、
- (1) ビデオセレクトボタンをくり返して押す (表示が消えるまで)。
 - (2) クリアーボタンを押す。

ご注意:

画質調整モードのまま約30秒放置すると、調整画面が消え、画面は調整前の状態にもどります。

ご注意:

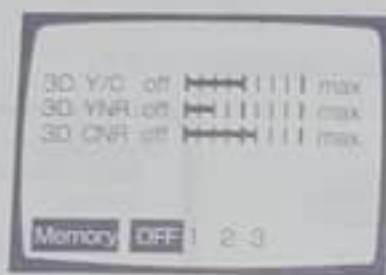
画質調整モードは、最後に調整した状態を保持しています。工場出荷時は、標準画質 (スタンダード) 設定です。
あらかじめメモリーされている画質から画質調整したい場合は画質メモリーを呼び出し、画面表示中にビデオセレクトボタンを押してください。(画質メモリーの呼び出ししかたは19ページを見てください。)

画質設定のメモリー

各項目の設定値の組み合わせを3通りまでメモリーできます。

1 ビデオセレクトボタンを押します。

- 「Memory」が反転表示になるまで、くり返し押します。



2 シャトルリングを回します。

- 1, 2, 3のうちの1つを反転表示にします（メモリーを選ぶ）。
- OFFを反転表示にするとメモリーされません。



3 ビデオセレクトボタンを押します。

- その時点で表示されている設定値がメモリーされ、選択画面が消えます。



画質メモリーの呼び出し

あらかじめメモリーされている3種類の画質と「画質設定のメモリー」でメモリーした3種類の画質から選べます。

■ あらかじめメモリーされている画質

Standard (スタンダード)	標準画質です。
Sports (スポーツ)	動きの速い映像向けの画質です。
Art (アート)	動きの遅い映像向けの画質です。

■ 呼び出しかた

ビデオメモリーボタンを押します。

- 1回押すと下記のような画面表示になります。
- 選択されているメモリーは、反転表示になります。
- 表示中に続けて押すとメモリーの選択が移ります。



ご注意：

反転表示がない場合は調整段階の状態を意味します。



- 約5秒で表示は消えます。
- クリアーボタンを押すと、すぐに表示が消えます。

LDグラフィックスを楽しむ

LDグラフィックスとは

ディスクの記録フォーマットには、映像や音声信号を記録する場所以外にサブコードという記録場所があります。ここに、映画の台詞や歌の歌詞などの信号を記録しておき、その信号を読み取って画面に映し出すのがグラフィックスです。

LDグラフィックスディスクには **LD-G** マークが付いています。



1 電源を入れ、グラフィックス対応ディスクをセットします。

2 グラフィックスボタンを押します。

- グラフィックスチャンネル0と1がオンになります。Graphics Mode 1の表示が出ます。もう1度押すと、グラフィックスチャンネル2がオンに変わります。Graphics Mode 2の表示が出ます。



3 再生を始めます。



グラフィックスをオフにするには

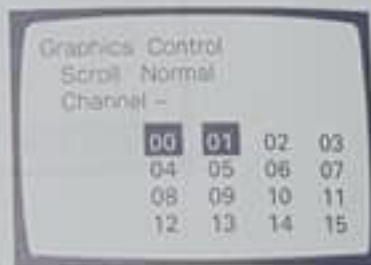
Graphics Mode 2からグラフィックスボタンを押します。

グラフィックス表示の位置を変えるには

映画の台詞などの表示位置を変えることができます。グラフィックスの始めの位置表示(初期値)はグラフィックスによって異なります。

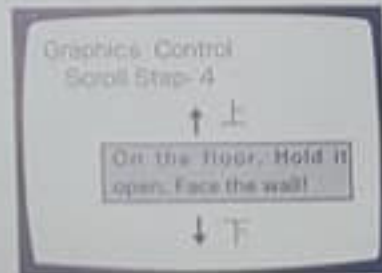
1 チャンネルモードボタンを押します。

- Graphics Controlの画面表示が出ます。



2 画面表示しているあいだにシャトルリングを回します。

- 右へ回すと上に移動します。左へ回すと下に移動します。
- Scroll Step 表示になり、Normalから17まで18段階できます。



3 位置を決めたらチャンネルモードボタンを押します。

- 上記のグラフィックスコントロール画面が消えます。



ご注意:

グラフィックスが記録されていないディスクを再生すると、まれに誤ったグラフィックス映像を出すことがあります。これは故障ではありません。グラフィックスが記録されていないディスクを再生するときは、必ずグラフィックスをオフにしてください。

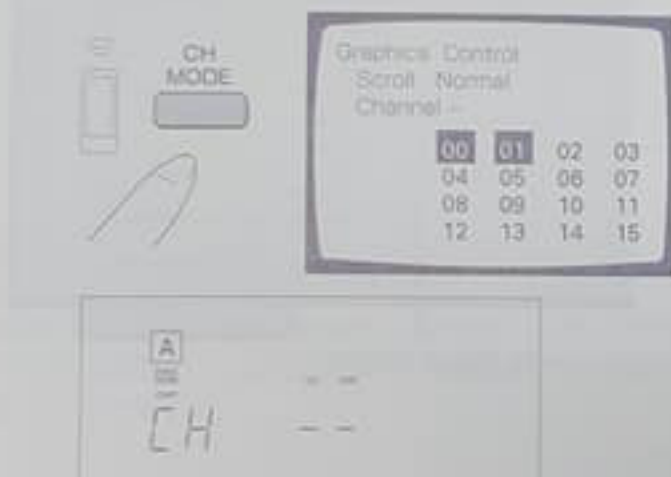
LDグラフィックスディスク再生時に、次の操作をすると、グラフィックス映像の“文字が欠ける”、“画面と文字、画面と画面、文字と文字が重なる”、“画面や文字の色が変わる”ことがあります。これは故障ではありません。しばらくすると、正しいグラフィックス映像になります。

- 早送り、早戻し (シャトルリング、スキャンボタン)
- 一時停止 ● サーチ
- グラフィックスコントロール画面でグラフィックスボタンをオンにする。



グラフィックスチャンネルを変えるには*1

- 1 チャンネルモードボタンを押します。
 - Graphics Controlの画面表示が出ます。



- 2 リモコンの数字ボタンでチャンネルを選びます。



- もう1度同じチャンネルの数字ボタンを押すとオフになります。

- 3 もう1度チャンネルモードボタンを押します。
 - 元の表示に戻ります。



*1 LDグラフィックスには0~15までの16のグラフィックスチャンネルがあります。このグラフィックスチャンネルをオン/オフすることにより、画面に映す情報を選ぶことができます。本機は、電源を入れたときはいつも0と1チャンネルがオンになります。ディスクのジャケットなどにチャンネルの指示が書いてある場合とディスク映像から指示がある場合以外は、変更しなくてもグラフィックスを出すことができます。

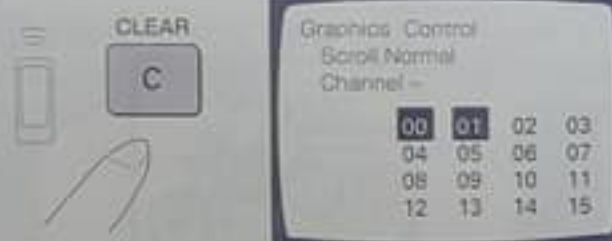
設定したチャンネル、表示位置を始めの位置に戻すには

- 1 チャンネルモードボタンを押し、Graphics Controlの画面を出します。



チャンネル、表示位置の両方に戻すには

- 2 画面表示しているあいだにクリアーボタンを押します。
 - 始めの状態に戻ります。
 - LDグラフィックスでは、始めにGraphics Mode 2に設定してあった場合は、チャンネル2に戻ります。



チャンネルだけに戻すには

- 2 画面表示しているあいだにグラフィックスボタンを押します。



もう1度グラフィックスボタンを押すと、チャンネル2になります。グラフィックスボタンを押すたびにグラフィックス映像を消します。

あれっ?グラフィックス映像が出ない

LDグラフィックスディスクを使用してグラフィックスボタンを押してもグラフィックス映像が出ないときは、グラフィックスチャンネルの設定が合っていないことが考えられます。このような場合、電源を1度切り再び電源を入れるか、チャンネルモードボタンを押してグラフィックスコントロールモードにし、クリアーボタンを押してください。グラフィックスチャンネルが始めの状態に戻ります。

映画ディスクを楽しむ場合 -シアターモード

シアターモードでは映画の雰囲気をこわさないようにするために次のような特長があります。

- 画面表示が出なくなります。
本体またはリモコンのボタンを押すと約1.5秒間表示します。
- 表示窓の表示が消えます。
本体またはリモコンのボタンを押すと約1.5秒間点灯します。
- 通常、ディスクのサイド（面）が変わるときはメモリー画面になりますが、シアターモード時は黒画面になります。

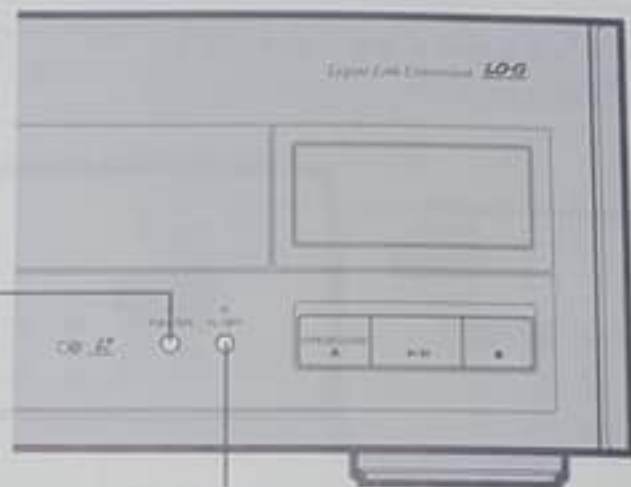
- TOCを読みません。
再生開始時間、反転時間を短くするためにTOCを読みません。これにより、TOC入りLDであってもランダムプレイができなくなります。また、リメイン時間、ABS時間、TOTAL時間の表示ができなくなります。
(シアターモードにする前に1度再生した場合は通常どおりです。)
- シアターボタンをもう1度押すと、オフになります。

シアターモードにするには

シアターボタンを押します。

THEATER

インジケータが点灯します。



ご注意:

シアターモードにすると、電源オンであっても表示窓が消えてしまいます。また、1度電源をオフしてもシアターモードであることを記憶していますので、電源をオフにし、再度電源をオンにしても表示窓は消えたままです。表示窓を点灯させたい場合にはFL表示オフボタンを押してください。

スタイル&サウンド再生

好みの画面を静止画にし、音声はふつうの再生で聞くことができます。



ストロボボタン



画面は静止しますが、音声は再生をつづけます。リピートやプログラム再生操作を行っても画面はそのままだので好みの音楽を聞いたりできます。



ふつうの再生に戻すには：

プレイボタン (▶) を押すと、ふつうの再生になります。

ストロボモーション再生

スタイル&サウンド再生の静止画を一定の間隔 (可変) で置き換えながら再生します。



ストロボボタン



選択された間隔で静止画を次々に置き換えながら、音声は再生をつづけます。



ストロボボタンを押すことに、下記のように置き換え間隔が変わります。

ストロボボタン	画面上の表示	置き換え間隔
	STROBE	静止
	1/90	3秒置き
	1/30	1秒置き
	1/8	8コマ置き
	1/30	1秒置き
	1/90	3秒置き

通常再生の1秒間は30コマです。

音声は通常再生のため、X2、X3等のモードはありません。

ふつうの再生に戻すには：

プレイボタン (▶) を押すと、ふつうの再生になります。



再生の方向を変えるには



- 通常の再生に戻すには、プレイボタン (▶) を押します。逆方向の再生でディスクの始めに戻ると、通常の再生が始まります。正方向の再生でディスクの終わりまでくると、静止画になります。

再生の速さを変えるには



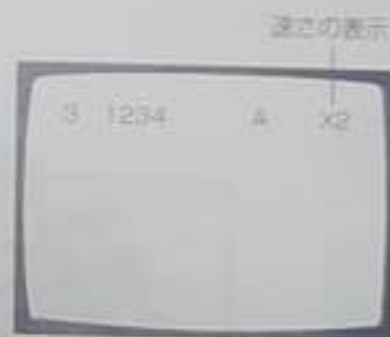
- ◀または▶のボタンを押すことで、速さが変わります。

スピードの表示	速さ
1/8	通常の再生の1/8倍の速さ
1/2	通常の再生の1/2倍の速さ
x 2	通常の再生2倍の速さ
1/2	通常の再生の1/2の速さ
1/8	通常の再生の1/8の速さ
1/30	通常の再生の1/30の速さ

速さを確認するには



選んでいる速が表示されます。



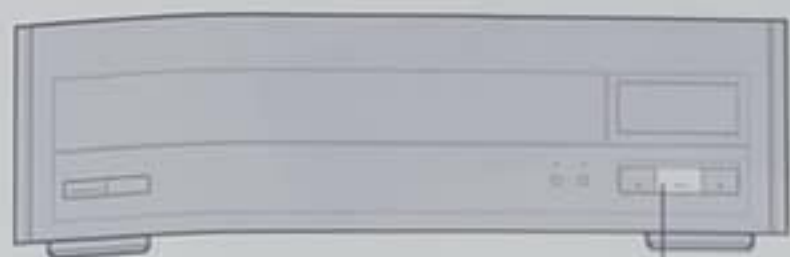
あれっ？音が聞こえない
マルチスピード再生中は音が聞こえません。

初めてマルチスピードボタンを押すと：
自動的に 1/8 の速さが選ばれます。

自動的に静止画になってしまった：
ディスクの中には、ピクチャーストップコードという特別な信号を記録したものがあります。このようなディスクを1/2、1/8、1/30のいずれかのスピードで再生すると、ピクチャーストップコードで指定されたフレームで自動的に静止画となります。そのときは、プレイボタン (▶)、マルチスピードボタン (◀, ▶) で画面を動かしてください。
本体のプレイ/ポーズボタンを2秒間押し続けると、ピクチャーストップコードのある画面にきても静止せずに再生を続けます。このとき画面に 'PSC ON' の表示が約2秒間出ます。再び本体のプレイ/ポーズボタンを2秒間押し続けると 'PSC OFF' の表示が出てピクチャーストップコードのある画面で静止画になります。

静止画／コマ送り - スティル／ステップ

静止画、コマ送り中の音声は聞こえません。



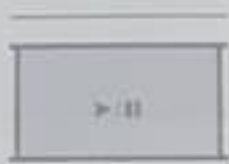
プレイ/ポーズボタン



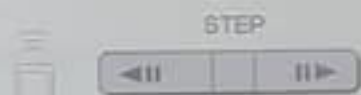
プレイボタン (▶)

静止画にするには

再生中に押します。



または



または



- 通常の再生に戻すには、プレイ/ポーズボタン (▶/⏸)、リモコンのプレイボタン (▶) またはポーズボタン (⏸) を押します。

コマ送りにするには

リモコンのステップボタンを押します。

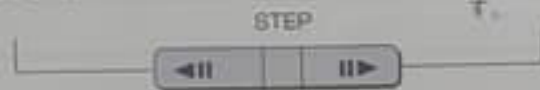


1回押すと静止画になります。その後、押すごとに下のようにコマ送りが行われます。



押すごとに1コマずつ前へ戻ります。

押すごとに1コマずつ先へ進みます。



- 通常の再生に戻すには、プレイ/ポーズボタン (▶/⏸)、リモコンのプレイボタン (▶) またはポーズボタン (⏸) を押します。

ポーズタイマーについて

長時間静止画状態のままにしておくと、モーターの寿命を縮める原因となりますので、約20分間静止画状態が続くと自動的に停止します。

ご注意：

- CAVディスクの場合は、フレーム単位の静止画、コマ送り、CLVディスクの場合は、フィールド単位の静止画、コマ送りとなります。
- フィールドコマ送り時に画面が変わらない場合がありますが故障ではありません。

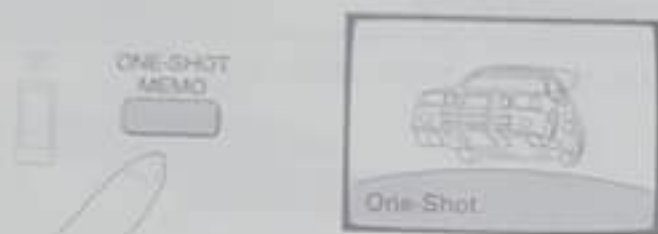
好きな画面のまま別のディスクを楽しむ -ワンショットメモリー-

好きな画像をメモリーしておく。再生終了後、メモリーした画像が映し出されます。再生を中止しても映し出されているため、ディスクをかけ替えるときなどに適しています。また、そのままでのディスクを再生しそのVとして楽しむことができます。



通常再生中...

好きな画面でワンショットメモリーボタンを押します。



ボタンを押した場所をメモリーします。
テレビ画面にOne-Shotの表示が数秒間出ます。

再生終了後...



メモリーした画面が出ます。
ディスクをかえてもテレビ画面は変わりません。別のディスクを再生するときは、ワンショットメモリーボタンをもう一度押して解除してください。

ご注意:

- ワンショットメモリーでは、アドレス(注)を記憶するためメモリーした画像と異なる画面が出る場合があります。また、秒の記録されていないディスクでは全く違う画像が出る場合があります。
- ワンショットメモリー画像が映し出されている時は、テレビ画面には文字の表示はしません。

(注) CLVではタイムナンバー、CAVではフレームナンバーになります。

- ワンショットメモリーボタンを押したあとで再生面がかわると、再生が終了してもボタンを押した場所の画面は出ません。
- ワンショットメモリー画像が映し出されている時にグラフィックス対応ディスクを再生し、グラフィックスをオンにするとグラフィックス映像が出ます。
見にくい時には、グラフィックスをオフにするか、ワンショットメモリーを解除してください。

プレイヤーの選ぶ順番で再生する (ランダム再生)

TOC付きLD

ディスク中の片側すべてのチャプターを本機が異なる順番に並べ替えて再生します。



ランダム再生



ランダム再生が始まります。
ディスク中の片側すべてのチャプターの再生
が終わると停止します。

- ランダム再生中にランダムボタンを押すとそのときの再生順序は解除され、あらたな再生順序でランダム再生を再開します。
- 表側 (A面) だけランダム再生します。裏側 (B面) をランダム再生する場合は、ディスクサイドBボタンを押して、裏側を再生してから、ランダムボタンを押します。



ランダム再生の次の曲に移るには：

- ▶▶ ボタンを押します。押すたびに次々と進みます。
- ◀◀ ボタンを押しても前のチャプターには戻りません。

ランダム再生をやめるには：

- リモコンのクリアーボタンを押します。
- 再生中のチャプターからディスクに入っている順序で再生します。

ご注意：

- チャプター0は、ランダム再生しません。
- TOCのないディスクではランダム再生できません。ディスクの初めから通常再生します。
- シアターモードではランダム再生できません。シアターモードをOFFにして、一度再生を止めてからランダムボタンを押してください。

ランダム再生を繰り返すは：

- ランダム再生中にリピートボタンを押します。ランダム再生が繰り返されます。リピート再生から抜け出すには、クリアーボタンかリピートボタンを押します。

見たい場面を探す

早送り・早戻し - スピードスキャン



早送り・早戻しで探すには

- スキャンボタンを押している間、早送り、早戻しをします。



見たい場面が見つかったら、指を離します。
すると、通常再生に戻ります。

ディスクの始めまでスキャンすると：
ふつうの再生が始まります。

ディスクの終わりまでスキャンすると：
静止面になります。

再生速度について：

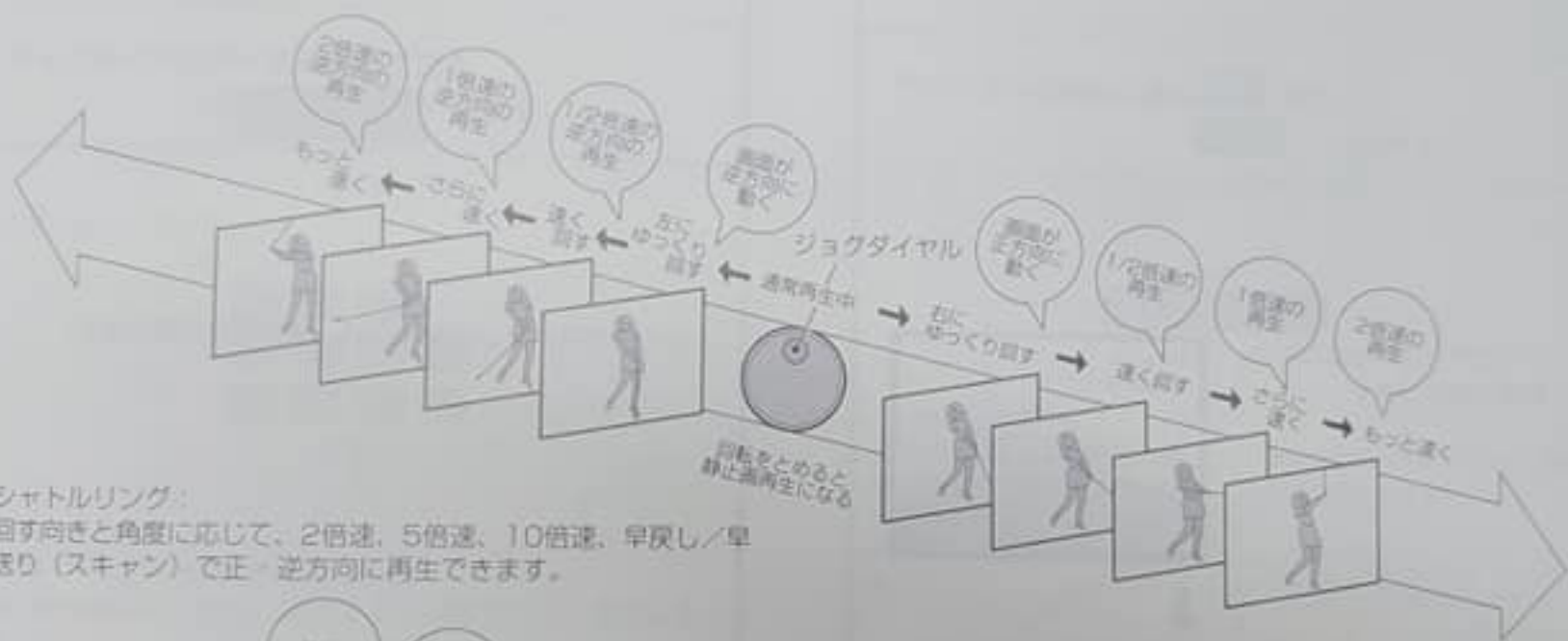
ボタンを押してから約2秒間はゆっくりとスキャンし、その後高速でスキャンします。

再生の速さと向きをワンタッチで変える特殊再生で探す

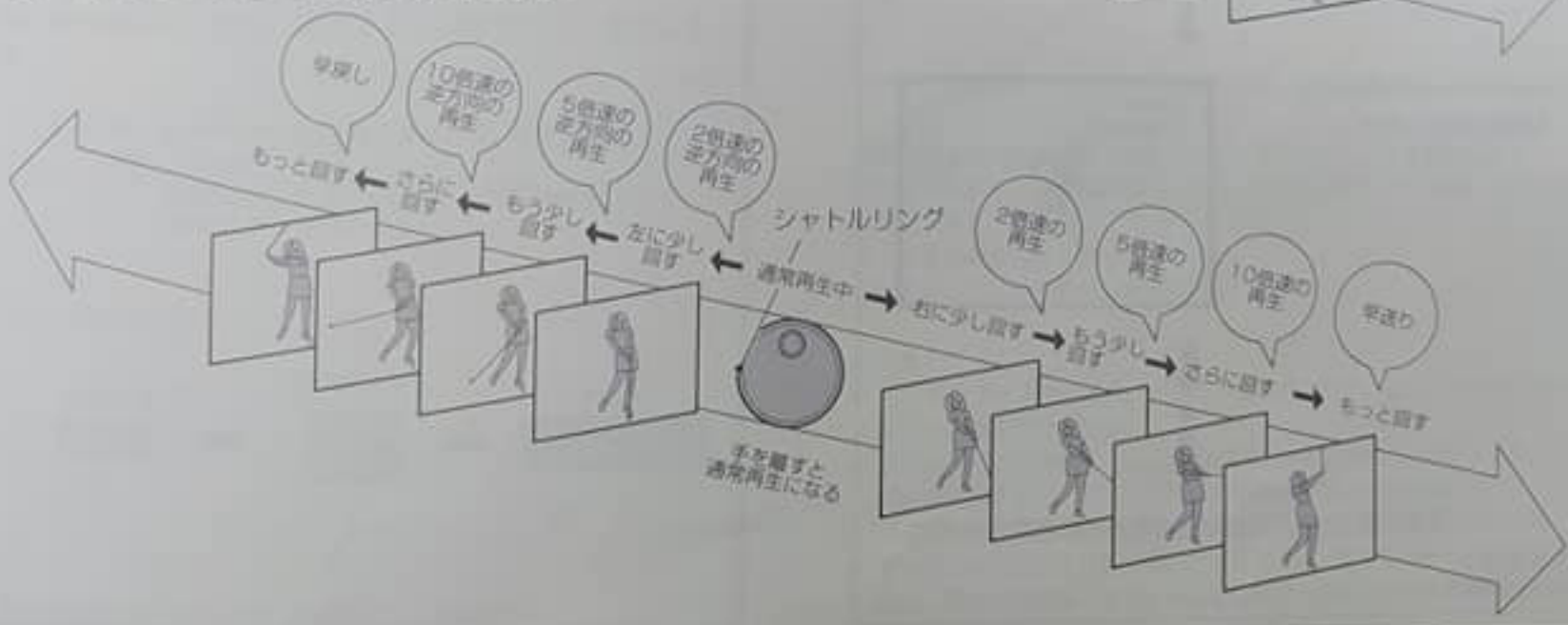
シャトルリング、ジョグダイヤルを使います。



ジョグダイヤル:
ジョグモードボタンを押します。ジョグモードボタンが点灯します。再生向きと速さに応じてコマ送り、1/2倍速、ふつうの速度、2倍速で正・逆方向に再生できます。



シャトルリング:
再生向きと角度に応じて、2倍速、5倍速、10倍速、早戻し/早送り（スキップ）で正・逆方向に再生できます。



ジョグダイヤル、シャトルリングでの特殊再生中は、音が出ません。
(ふつうの速度の再生でも音は出ません。)

ジョグダイヤル操作後、ふつうの再生に戻るには：
プレイ (▶) ボタンを押します。

CLV再生中、ジョグダイヤルのスピードがコマ送りのときはフィールド単位で行っています。(p4ページ)

リモコンのジョグモードボタンはジョグダイヤルを使わないときはオフにする：
ジョグモードボタンは、ジョグダイヤルを操作しなくなってから約5分で自動的にオフになりますが（ジョグモードインジケータ点灯）、リモコンの電池の消耗を防ぐためジョグダイヤル操作後はジョグモードボタンを押してオフにしてください。

ディスクの終わりまでスキップすると：
静止画になります。

チャプターの始めだけを連続再生して探す - イントロスキャン

リモコンのイントロスキャンボタンを押すと、ディスク両面に記録されている全チャプターの始めの部分（約8秒間）を順に再生していきます。

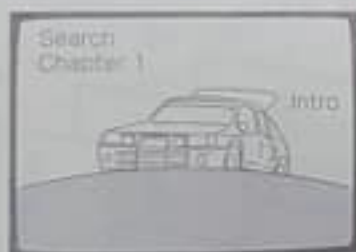
- チャプターナンバーの記録されていないディスクでは、イントロスキャンはできません。



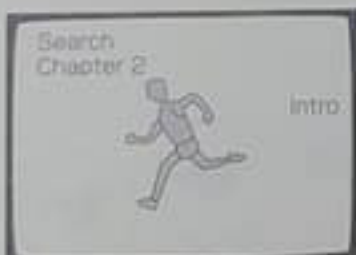
イントロスキャンボタンを押します。



チャプター1の始めの8秒間を再生します。



チャプター2の始めの8秒間を再生します。



ディスク両面の全チャプターの始めを約8秒間次々と再生します。

2 見たい場面が見つかったらプレイボタン (▶) を押しします。



イントロスキャンは解除され、通常再生に戻ります。

全チャプターをイントロスキャンし終えると：
A面の始めのチャプターから通常再生します。

チャプターで探す - ダイレクト/ノーマルサーチ、スキップ

チャプターはLDに記録されている区切りのことで、本の「章」にあたります。チャプターナンバーが記録されているディスクにはジャケットに表示があります。



チャプターナンバーを指定して探す -ダイレクト/ノーマルサーチ

<ダイレクトサーチ>

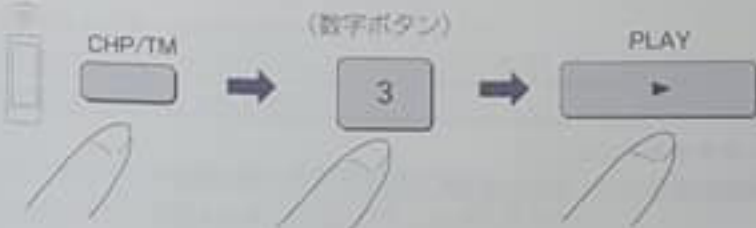


見たいチャプターの数字を押します。
押しまちがえたときは、続けて正しい数字ボタンを押します。

チャプターナンバーが10以上のときは **[CHP]** を使います。

(例) 17のとき **[CHP]** → **[7]**
30のとき **[CHP]** → **[+]** → **[CHP]** → **[0]**
10のとき **[CHP]** → **[0]**

<ノーマルサーチ>



フレームナンバーまたはタイムナンバーの表示はもう一度押します。
押しまちがえたときはクリアーボタンを押し、正しい数字ボタンを押します。

サーチ前の状態に関係なく静止画再生になります。

チャプターの始めに戻る・次に進む -スキップ



1回押しと現在のチャプターの始めに戻ります。画像が出る前に押すと、前のチャプター、その前のチャプターへ戻り再生を始めます。

押したびに次のチャプターに進み再生を始めます。

現在のチャプターやフレームナンバー、タイムナンバーを知るには：
表示窓を見ます。リモコンのディスプレイボタンを押して、画面に表示することもできます。

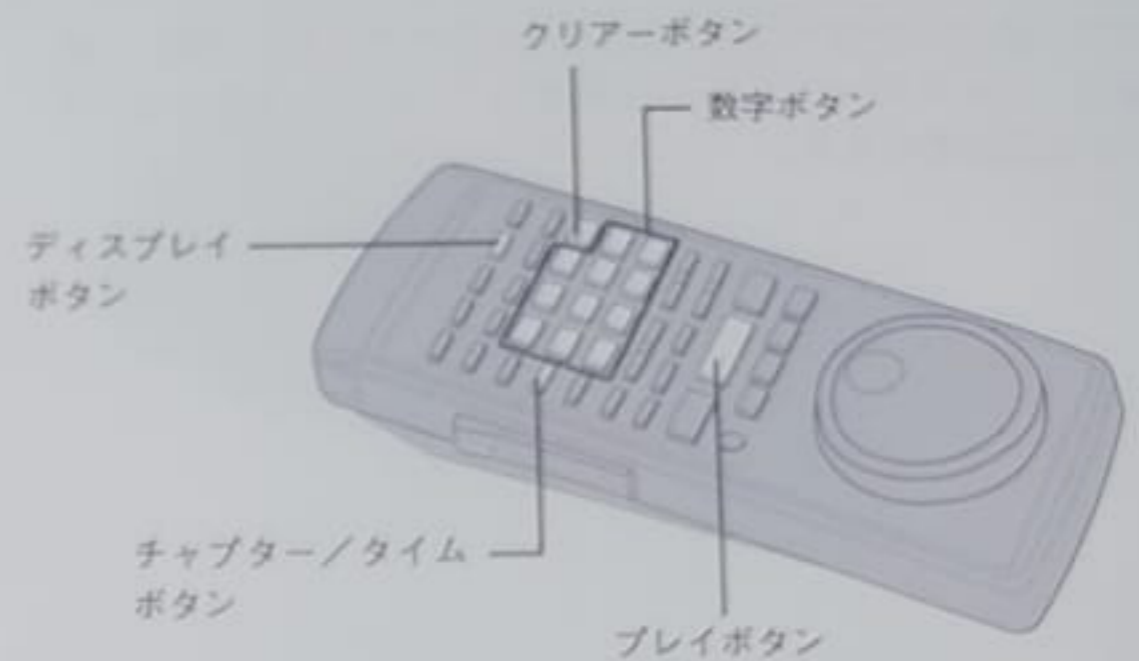
サーチをやめるには：
サーチ中にクリアーボタンを押します。

ご注意：

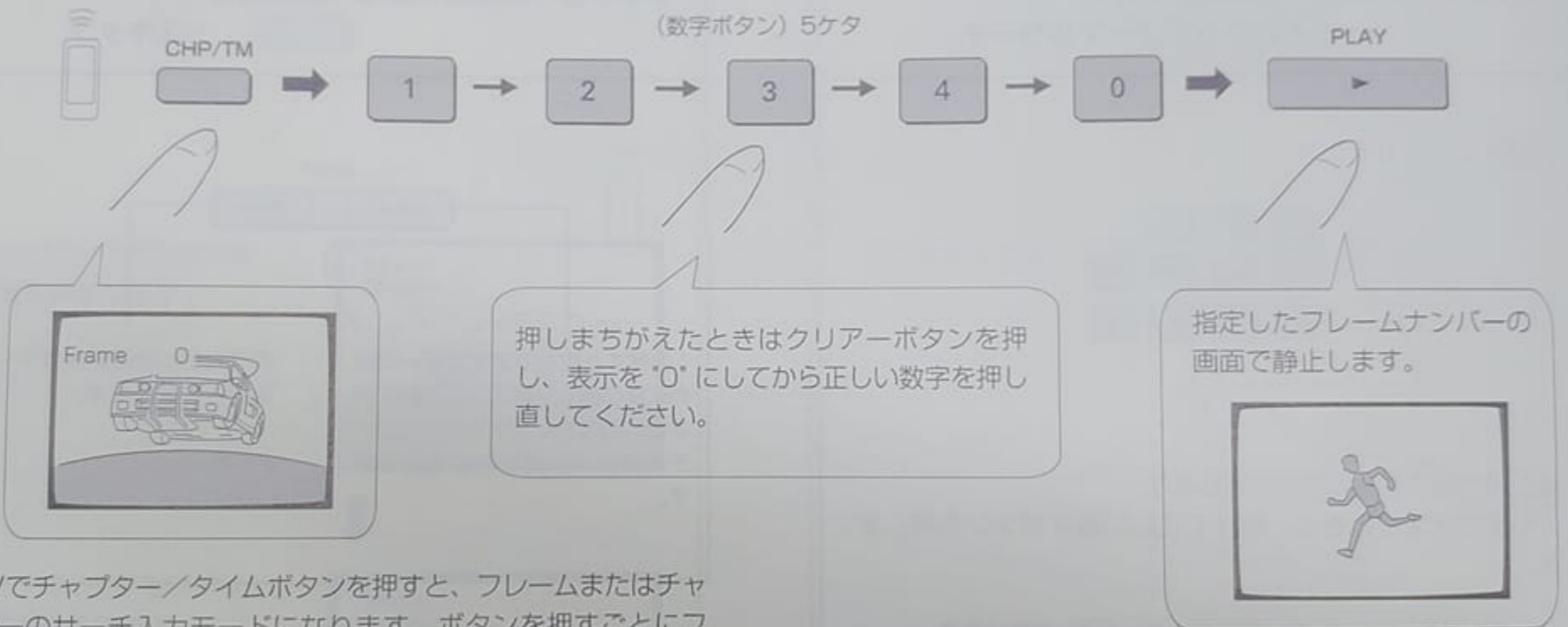
- TOC付きディスクの場合、ディスクに記録されている以上のチャプターナンバーは指定できません。
- TOCのないLDの場合、ディスクに記録されている以上のチャプターナンバーを指定すると、ディスクの終わりで静止画になります。
(「0」を指定すると、ディスクの始めから再生します。)
- チャプターが記録されていないディスクでは、チャプターサーチはできません。再生中の画面にはフレームまたはタイムナンバーしか表示されません。

フレームナンバーを指定して探す (標準ディスクCAVのみ)

フレームとは、CAVに録画されている画像の1枚1枚のことです。フレームナンバーはこれらの画像の最初の1枚から最後の1枚までを、通しナンバーで記録した番号をいいます。フレームナンバーを指定して、見たい場面を探します。



例 再生中にフレームナンバー12340を探すには:



CAVでチャプター/タイムボタンを押すと、フレームまたはチャプターのサーチ入力モードになります。ボタンを押すごとにフレームサーチ入力、チャプターサーチ入力、入力モード解除となります。フレームサーチ入力時の表示は「Frame 0」でその後 [1] [2] [3] [4] [0] と入力すると「Frame 1 2 3 4 0」と変わりプレイボタンを押すことによってフレーム1 2 3 4 0をサーチします。

もう一度プレイボタンを押すと通常の再生になります。

フレームナンバーの指定に使える数字ボタンは：
[0]~[9]のボタンが使えます。[+10] ボタンは使えません。

サーチをやめるには：
サーチ中にクリアーボタンを押します。

現在のチャプターとフレームナンバーを知るには：
表示窓を見ます。リモコンのディスプレイボタンを押して、これらのナンバーを画面に表示することもできます。

ご注意：
ディスクに記録されている以上のフレームナンバーをサーチすると、ディスクの終わりで静止画になります。(「0」を指定するとディスクの始めから再生します。)

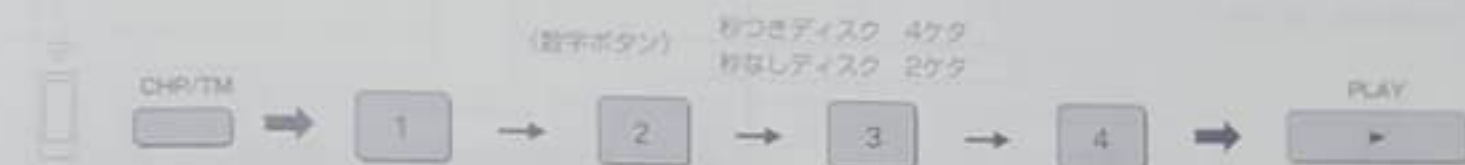
タイムナンバーを指定して探す (長時間ディスクCLVのみ)

タイムナンバーとはCLVディスクの記録されている再生経過時間のことです。

タイムナンバーを指定して、見たい場面を探します。



例 再生中に12分34秒の画像を探すには:



押しまちがえたときはクリアーボタンを押し、表示を「0.00」にしてから正しい数字を押し直してください。

指定したタイムナンバーで静止画になります。



もう一度プレイボタンを押すとふつうの再生になります。

CLVではフレームナンバーの代わりにタイムナンバーが記録されているので、チャプターまたはタイムのサーチ入力モードになります。操作はCAVと同じで、表示は入力モードに入った時「Time 0.00」、時間を指定した後「Time 1 2.3 4」となります。

現在のチャプターとタイムナンバーを知るには:

表示窓を見ます。リモコンのディスプレイボタンを押して、これらのナンバーを画面に表示することもできます。

タイムナンバーの指定に使える数字ボタンは:

0-9のボタンが使えます。[STOP] ボタンは使えません。

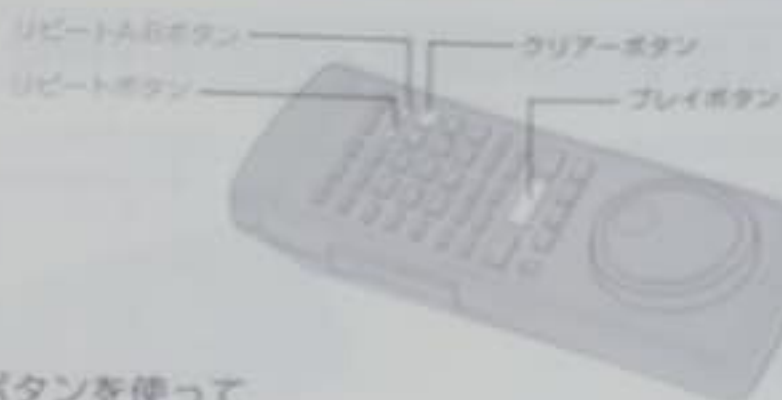
サーチをやめるには:

サーチ中にクリアーボタンを押します。

ご注意:

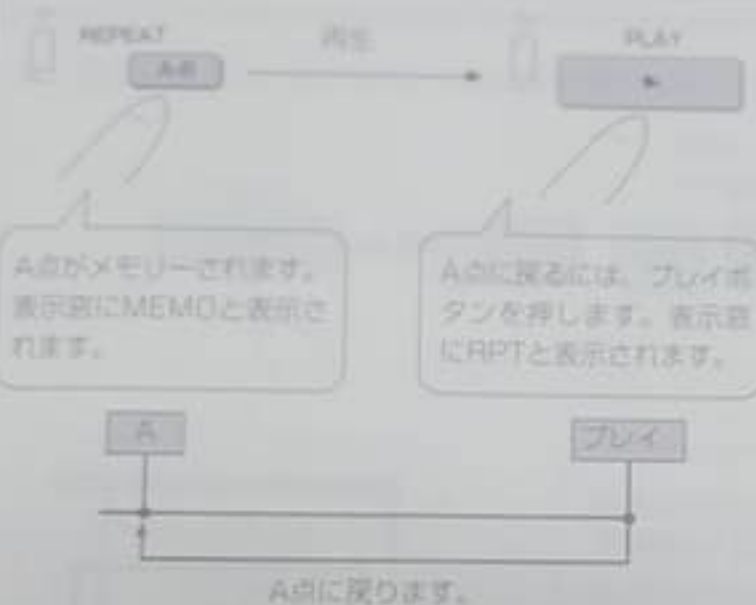
- 秒の記録されていないディスクでは分 (2ケタ) で指定してください。
- ディスクに記録されている以上のタイムナンバーをサーチすると、ディスクの終わりで静止画になります。

繰り返し見る - リピート再生

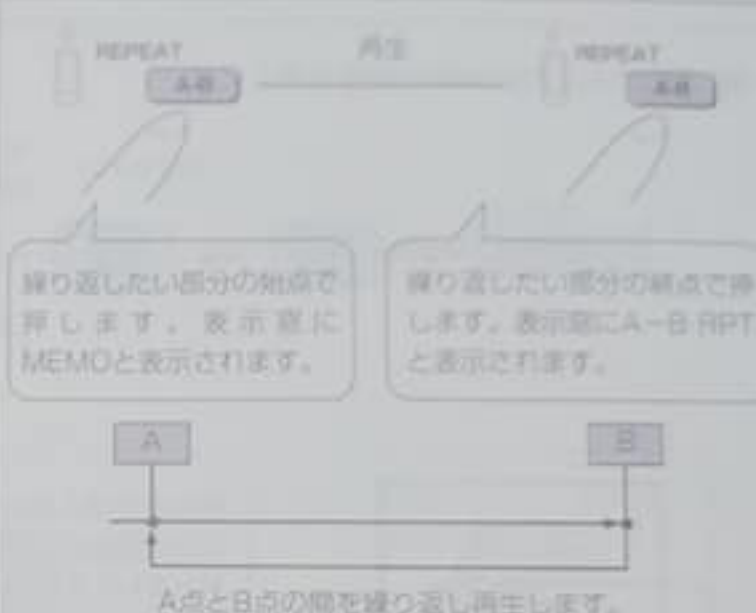


リピートA-Bボタンを使って

好みの部分をメモリーして、もう一度再生する
- メモリーリピート



指定した区間を繰り返し再生する
- A-Bリピート



再生時のリピート

再生中のチャプターを繰り返し再生する
- チャプターリピート

繰り返し再生したいチャプターの再生中にリピートボタンを押します。表示窓にCHP RPTと表示されます。

再生中のチャプターの 再生中のチャプターの
始め 終わり

チャプターの終わりまで再生すると始めに戻り、繰り返し再生します。

ディスクの片面すべてを繰り返し再生する
- 片面リピート

リピートボタンを2回押します。表示窓にA RPTまたはB RPTと表示されます。

再生面の始め 再生面の終わり

再生面の終わりまで再生するとディスクの始めに戻り、繰り返し再生が始まります。

ディスクの両面を繰り返し再生する
- 両面リピート (両面再生用LDのみ)

リピートボタンを3回押します。表示窓にALL RPTと表示されます。A面からB面、またはB面からA面へと繰り返し再生が始まります。

その他のリピート

ランダム再生を繰り返すには
- ランダムリピート (TOC付きLD)

ディスクの片面を順不同に再生するランダム再生を繰り返し聞けます。

- ランダム再生については27ページをご覧ください。

ランダム再生中にリピートボタンを押します。表示窓にRDM RPTと表示されます。

プログラムを繰り返し再生するには
- プログラムリピート

プログラムしたチャプターをプログラム順に繰り返し再生できます。

- プログラムについては36ページをご覧ください。

プログラム再生中にリピートボタンを押します。表示窓にPGM RPTと表示されます。

リピート再生から抜け出すには：
クリアボタンを押します。リピートモードは解除されますが再生はそのまま続きます。

メモリーリピートでA点を指定しなおすには：
クリアボタンを押して一度A点をクリアします。その後希望のところでリピートA-Bボタンを押します。

チャプターナンバーのないLDでは：
チャプターリピートはできません。このようなディスクでは、リピートボタンを1回押すと片面リピートになり、2回押すと両面リピートになります。

現在の再生モードを確認するには：
表示窓を見ます。リモコンのディスプレイボタンを押して、再生モードを画面に表示することもできます。

見たい場面をプログラムする

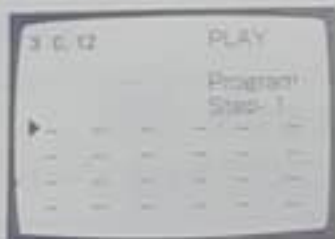
再生したいチャプターを好きな順序で再生できます。最高24のチャプターがプログラムできます。



1 プログラムボタンを押します。



プログラムするときの画面

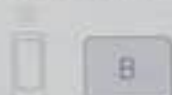


2 プログラムしたい場面、または曲を選びます。

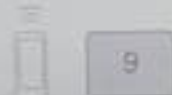
<両面再生LDの場合>

例：B面チャプター8、A面チャプター7、B面チャプター18の順でプログラムする。

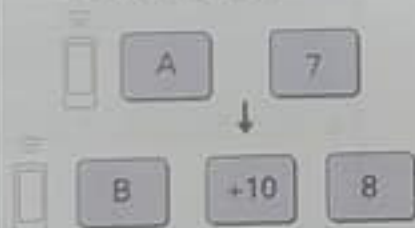
① A面またはB面を選びます。



② チャプターナンバーを指定します。



● 上の①②を繰り返して、次のチャプターをプログラムしていきます。



プログラムが完了した画面

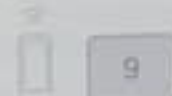


プログラムしたチャプターナンバー

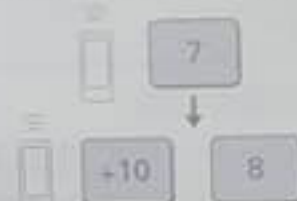
<片面再生LDの場合>

例：チャプター9、7、18を順にプログラムする。

① チャプターナンバーを指定します。



② 続けてプログラムしていきます。



● 数字を押しまちがえたときは、クリアーボタンを押してから正しい数字を押し直してください。

プログラムが完了した画面



プログラムしたチャプターナンバー

プログラム再生を途中でやめるとき：

- ストップボタン (■) を押します。または、リモコンのクリアーボタンを押します。

プログラムの内容を消すには：

- ディスクテーブルを開けます。または、
- 停止状態でクリアーボタンを押します。

3 プログラム再生を始めます。



プログラムされた順序で再生が始まります。プログラムしたすべてのチャプターの再生が終わると停止状態になります。

プログラム内容を確認するには：

プログラム再生中や、プログラムの再生が終わったあとにプログラムボタンを押すとプログラムした内容が画面に表示されます。

もう1度プログラムボタンを押すと、表示は消えます。

プログラムした内容を変えるには

プログラムしたチャプターナンバーやポーズを削除するには：

1. プログラムボタンを押します。
2. スキップボタン (◀◀, ▶▶) を押して、TV画面上に表示されるカーソル (▶) を削除するチャプターナンバーやポーズの左側へ移します。
3. クリアーボタンを押します。
4. プログラムボタンを押します。
プログラムボタンのかわりにプレイボタン (▶) を押すと、最初にプログラムされたチャプターからプログラム再生を始めます。

プログラムしたチャプターナンバーやポーズを訂正するには：

1. プログラムボタンを押します。
2. スキップボタン (◀◀, ▶▶) を押して、TV画面上に表示されるカーソル (▶) を訂正するチャプターナンバーやポーズの左側へ移します。
3. ディスクサイドA/Bボタンや数字ボタンを押して、新しくプログラムするナンバーを表示させます。ポーズをプログラムするときは、ポーズボタン (II) を押します。
4. プログラムボタンを押します。
プログラムボタンのかわりにプレイボタン (▶) を押すと、最初にプログラムされたチャプターからプログラム再生を始めます。

- 再生中のチャプターの削除、訂正はできません。

ポーズ（一時停止）をプログラムすると：

ポーズをプログラムしておく、録音するときたいへん便利です。

- テープの両面に録音するとき、片面に録音する最後のチャプターのあとにポーズをプログラムしておく、一時停止のときにテープの録音面を替えられ、録音ミスを防ぐことができます。
- ポーズ状態のとき、ナレーションを吹き込んだり、無録音部分（サーチ操作などに必要）を作ることができます。ポーズ状態のときポーズボタン (II) をもう1度押すと、プログラム再生が引き続き始まります。録音を再開してください。

一時停止をプログラムするには：

上記の手順2に移ったら、プログラムしたいところでポーズボタン (II) を押します。

プログラムしたポーズの表示：

画面では「II」、表示窓では「PA」が表示されます。

前または次のプログラムに移るには：

スキップボタン (◀◀, ▶▶) を押します。

ご注意：

- ポーズも1ステップとして数えるので、プログラムできるチャプターはその分減少します。
- プログラムの1番目（ステップ1）、または2回続けてポーズのプログラムはできません。
- 最後のステップにポーズをプログラムしても、プログラムの表示を消すとポーズは削除されます。
- プログラム再生中にシャトルリングで早送り、早戻しをすると、別のチャプターに移りますが、シャトルリングを元に戻すと次にプログラムされているチャプターを再生します。
- プログラム再生中にマルチスピードボタン (▶) を押すとマルチスピード再生になり、次にプログラムされているチャプターもマルチスピード再生します。マルチスピードボタン (◀) を押すと逆方向のマルチスピード再生になり、再生中のチャプターの始めまで戻ります。その後ふつうの再生になり、プログラム再生を行います。
- ディスクに記録されていないチャプターをプログラムしないでください。プログラムを実行しない場合があります。

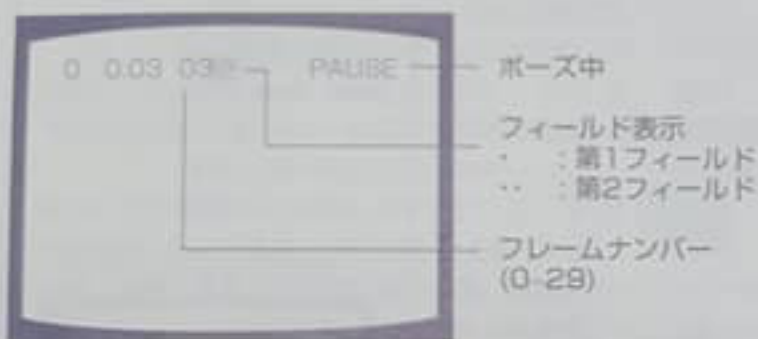
画面表示について



実際の表示は次のようになります。



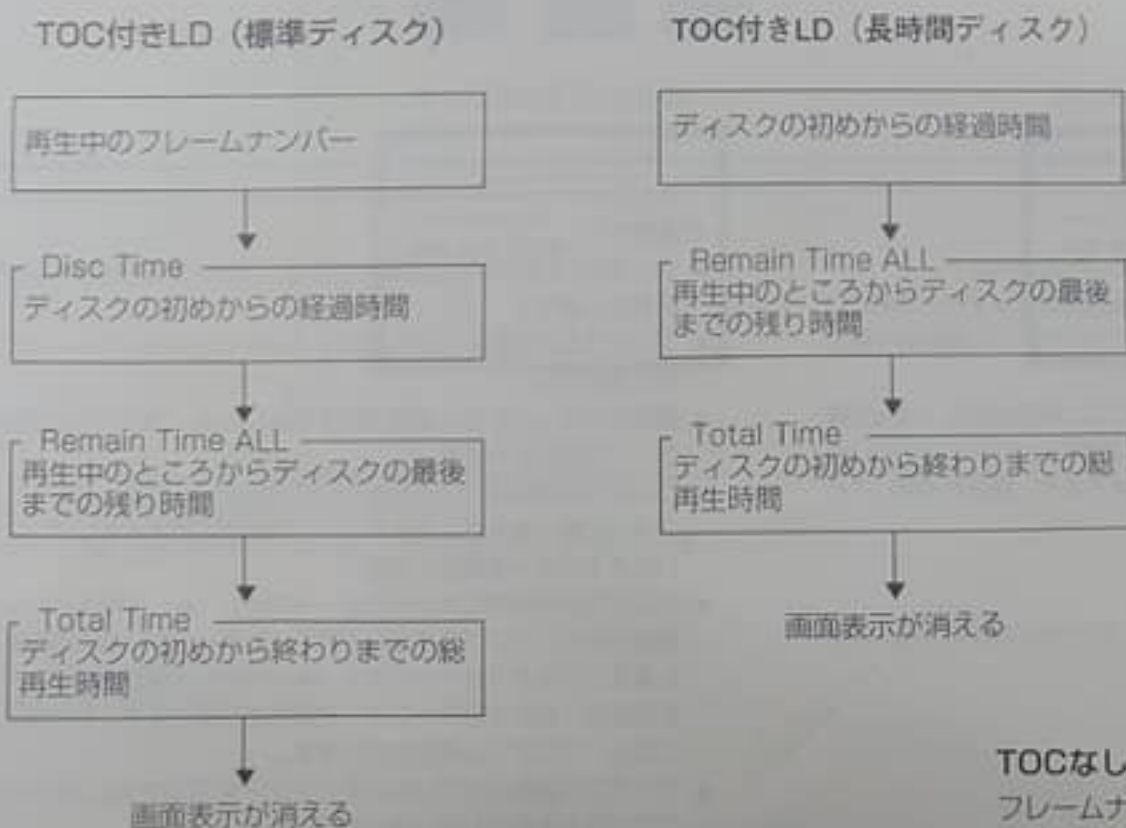
■フィールドスタイル表示について



- 何も操作せずに長時間画面表示をしたままにしておくと、自動的に画面表示は消えます。いずれかのボタンを押すと再び画面表示します。

- CLV再生時、静止画/コマ送り/ジョグモード時のみは上記の表示をします。

リモコンのディスプレイボタンで、現在行っている再生モード、チャプターナンバーや再生時間などを画面に表示できます。ディスプレイボタンを押すたびに次のように変わります。



TOCなしLDでは:

フレームナンバー (標準ディスク) または、ディスクの初めからの経過時間 (長時間ディスク) と画面表示が消えるが交互に切り換わります。

故障? ちょっと調べてください

故障かな?...と思ったらチェックしてみてください。ちょっとした操作ミスが故障と思われがちです。また、プレーヤー以外の原因も考えられます。ご使用のテレビやステレオコンポーネント、および同時に使用している電気器具も合わせてお調べください。下記の項目をチェックしても直らない場合はお買い上げの販売店またはお近くのバイオニアサービスステーションにご連絡ください。

症状	考えられる原因	処置
1. ディスクテーブルが出てこない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源が入っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源プラグをコンセントに差し込み、電源スイッチをオンにする。
2. ディスクテーブルを閉めても出てきてしまう。	<ul style="list-style-type: none"> ● ディスクが極端に汚れている。 ● ディスクがディスクテーブルに正しくセットされていない。 ● プレーヤーの内部が結露している。 ● ディスクが極端に変形（そりなど）している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ディスクをきれいにする。 ⇒別売りのディスククリーニングセットJV-D11をご使用ください。 ● 溝に合わせて正しくセットする。 ● ディスクを取り出し、電源を入れたまま約1〜2時間（水滴が消えるまで）待って使用する。 ● 変形したディスクは使えない。
3. リモコン操作ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 背面パネルのコントロール入力端子を使用している。 ● プレーヤーと離れすぎている。または、リモコン受光窓との角度がありすぎる。 ● 電池が消耗している。 ● プレーヤーのリモコン受光窓とリモコンの間に障害物がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● コントロール入力端子をつないでいる機器のリモコン受光窓に向けて操作する。 ● リモコン受光窓からの距離は約7m、角度は約30°の範囲で操作する。 ⇒操作できる範囲が極端にせまくなった場合には、リモコンの電池を取り替えてください。 ● 電池を交換する。 ⇒2個とも新しいものと交換してください。 ● 障害物を取り除くかリモコン操作の場所を変える。
4. リモコン操作をするとテレビが誤動作する。	<ul style="list-style-type: none"> ● ワイヤレスリモコン機能を持つテレビの一部には、本機のリモコン操作により誤動作するものがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● テレビと本機を離すか、ディスク再生中はテレビのリモコン受光部に覆いなどをしてリモコンの信号をテレビが受けないようにする。

- 静電気等、外部からの影響により本機が正常に動作しない場合があります。このような時は電源スイッチをオン/オフするか、電源コードを1度抜いて約1分程度おいてから再度差し込むことにより正常に動作します。

故障? ちょっと調べてください

症状	考えられる原因	処置										
5. ディスクは回転しているが映像が出ない。または映像は出るが画質が悪く乱れる。	<ul style="list-style-type: none"> テレビ(カラーモニター)の電源が入っていない。 接続が間違っている。 接続プラグの差し込みが不十分、または、外れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 電源を入れる。 正しく接続する。 しっかりと差し込む。 										
6. 画面が上下に流れる。(巻道同期が乱れる。)	<ul style="list-style-type: none"> 再生中、強い場面から弱い場面へ切り換わる時など、一時画面が上下に流れることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> テレビの巻道同期を調整する。 										
7. ディスクによって画質が悪い、映像が乱れる。	<ul style="list-style-type: none"> ディスクが極端に汚れている。 ディスクが極端に変形(そりなど)している。 	<ul style="list-style-type: none"> ディスクをきれいにする。 ⇒別売りのディスククリーニングセットJV-D11をご使用ください。 変形したディスクは使わない。 										
8. 音声が出なくなったようになる。	<ul style="list-style-type: none"> □マークのついていないディスクをCXシステムをオンにして再生している。 	<ul style="list-style-type: none"> リモコンのオーディオボタンを押してCXをオフにする。 										
9. 音声が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> マルチスピード再生、静止画・コマ送り再生では音が出ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 音を聞くときにはプレイ/ポーズボタン(▶)を押して通常再生にする。 										
10. 静止画の一部がブレる。	<ul style="list-style-type: none"> 標準ディスクでも動きの激しい場面では、静止画の一部がブレることがあります。プレーヤーの故障やディスクの不良ではありません。 											
11. チャプタースキップ、チャプタープログラム、チャプターナンバーサーチができない。	<ul style="list-style-type: none"> チャプターナンバーの記録されていないディスクを再生している。 	<ul style="list-style-type: none"> チャプターナンバーの記録されていないディスクでは、チャプターを利用した機能は働きません。 										
12. サーチ時間が長い。(約40秒以上かかる。)	<ul style="list-style-type: none"> サブコードの読み取りに時間のかかるディスクがある。(故障ではありません。) 	<ul style="list-style-type: none"> 極端に時間がかかる場合には、リモコンのクリアボタンを押す。 ⇒この場合、目標のサーチ場面とわずかにズレることがあります。 										
13. ディスクによってスタート時間が長いものがある。またはスタートしない。	<ul style="list-style-type: none"> サブコードの読み取りに誤りがある場合がある。(故障ではありません。) 	<ul style="list-style-type: none"> ストップボタン(■)を押して再生をやめ、プレイ/ポーズボタン(▶)を押してもう1度再生を始める。1回で再生が始まらないときは、何回か繰り返す。 										
14. A-BリピートでA点に戻るが遅い。	<ul style="list-style-type: none"> 上記12と同様。 	<ul style="list-style-type: none"> リモコンのクリアボタンを押すとA点とほぼ同じ場面が出ますが、A-Bリピートは解除されます。 										
15. タイムナンバーサーチのとき、指定したナンバーと違う場面をサーチする。	<ul style="list-style-type: none"> リモコンのディスプレイボタンを押して「秒」まで記録されたディスクか「分」までのディスクかを確認し、操作し直す。 (例) 12分サーチ 秒なしディスク: <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>チャプター/タイム</td><td>1</td><td>2</td><td>プレイ</td></tr></table> 秒ありディスク: <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>チャプター/タイム</td><td>1</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>プレイ</td></tr></table> <p>の手順で操作する。</p>	チャプター/タイム	1	2	プレイ	チャプター/タイム	1	2	0	0	プレイ	
チャプター/タイム	1	2	プレイ									
チャプター/タイム	1	2	0	0	プレイ							
16. フィールドコマ送り、戻しを行った場合、秒の切り換わり付近で表示ナンバーと画面が1-2フィールドずれる。	<ul style="list-style-type: none"> ディスクの記録内容によりこの様になる場合があります。故障ではありません。 											
17. フィールドコマ送り、戻しが出来ない。	<ul style="list-style-type: none"> リモコンのディスプレイボタンを押して「秒」表示が出ないディスクでは、フィールドコマ送り、戻しは出来ません。 CAVディスクでは、フィールドコマ送り、戻しは出来ません。 											
18. フィールドコマ送り、戻しを行った場合、表示は変わるが画面が変わらない。	<ul style="list-style-type: none"> ディスクの記録内容により、リモコンのステップボタンを2回押さないと画面が変わらない場合があります。故障ではありません。 											

<グラフィックス機能時>

症状	考えられる原因	処置
19. グラフィックスボタンを押してもグラフィックスの映像がでない。	<ul style="list-style-type: none"> ディスクにグラフィックスが記録されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> LD-Gマークが付いたディスクを使用する。
20. 再生中にグラフィックス映像の一部が乱れたり、文字が欠けたりする。	<ul style="list-style-type: none"> ディスクに傷がある。 ディスクが汚れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 傷のないディスクを使用する。 ディスクの汚れを拭き取る。 (→ 42ページ)
21. 早送り、早戻し、一時停止、サーチをしたらグラフィックスの映像が乱れたり、文字が欠けたりする。	<ul style="list-style-type: none"> 操作後しばらくすると正しいグラフィックス映像になります。 ストップボタン (■) を押して再生を止め、もう1度再生を始める。 	

自己診断機能について

本機は自己診断表示機能を持っています。
本機をご使用中に異常を検出すると、本体表示部およびTV画面に以下の表示(サービス番号)を自動的に表示します。まず、「対応のしかた」に従ってください。



サービス番号	本機の状態	対応のしかた
U1 U2	<ul style="list-style-type: none"> ディスクが正しくセットされていないと考えられます。 ディスクが正しくセットされている場合は、ディスクの汚れが原因と考えられます。 	<ul style="list-style-type: none"> ディスクをトレイの溝にそってセットしなおしてください。 ディスクを柔らかい布で拭いてください。 一度ディスクテーブルを開けてから、もう一度プレイボタン (▶) を押してください。
F5 P2 L3 E3 E4 E9	<ul style="list-style-type: none"> ディスクの汚れが原因と考えられます。 <p>(P、F、L、E以降の数字は本機の状態によって変わります。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ディスクを柔らかい布で拭いてください。 一度ディスクテーブルを開けてから、もう一度プレイボタン (▶) を押してください。 再度同じ表示がでた場合は異常と考えられます。 修理を依頼されるときに、本体表示部またはTV画面の表示(サービス番号)をお知らせください。 (例えば「E4」と表示しているときは、「サービス番号、E4」とお知らせください。)
H0 H1 A5	<ul style="list-style-type: none"> 異常と思われます。 <p>(A以降の数字は本機の状態によって変わります。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 修理を依頼されるときに、本体表示部またはTV画面の表示(サービス番号)をお知らせください。 (例えば「H1」と表示しているときは、「サービス番号、H1」とお知らせください。)

お手入れ — 正しく末永くお使いいただくために

■ 本機のお手入れ

本機の表面は柔らかい布で乾拭きしてください。汚れがひどい場合は、中性洗剤を5~6倍に薄めた液に柔らかい布を浸し、良く絞ったあと汚れを拭き取り、その後かわいた布で拭いてください。ベンジン、シンナー、アルコールなどを使うと表面の仕上げを傷めるので、使用しないでください。また、化学ぞうきんなどをお使いの場合は、化学ぞうきんなどに添付の注意事項をよくお読みください。

■ LDレンズクリーナーについて

ピックアップレンズは、通常汚れるものではありませんが、ご使用中にほこりなどにより不具合が発生したときは、アフターサービスの項をお読みの上、修理をご依頼ください。なお市販されているLDレンズクリーナーには、レンズを破損する恐れのあるものもごぞいますので使用しないでください。

■ ディスクの手入れ

- ディスクに指紋やホコリがついた場合でも、ディスクに記録された信号には直接影響しませんが、汚れにより信号記録面からの反射光の明るさが低減して音質が低下する場合があります。いつもきれいに清掃することを心掛けてください。清掃する場合には柔らかい乾いた布またはエチルアルコールでディスクの内周から外周方向へ軽く拭いてください。



円周方向へは拭かないでください

内周から外周方向へ軽く拭いてください

- ディスクの清掃には、別売のディスククリーニングセット（JV-D11）の使用をお薦めします。
- レコードスプレー、静電気防止剤などは使用できません。また、ベンジン、シンナーなどの揮発性の薬品をかけると表面が侵されることがあります。ご注意ください。

LD (レーザーディスク)

レーザーディスクには、信号の記録方式により標準ディスク (CAV) と長時間ディスク (CLV) があります。

CAV

ディスクのジャケット、またはレーベルに「標準ディスク (CAV)」、または「Standard Play」と表示されています。

CLV

ディスクのジャケット、またはレーベルに「長時間ディスク (CLV)」、または「Extended Play」と表示されています。

デジタル音声付きレーザーディスク

アナログ音声信号に加えて、デジタル音声信号も合わせて記録されたディスクです。レーザーディスクの高品質の映像とデジタルサウンドが同時に楽しめます。



デジタル音声付きマルチオーディオディスク

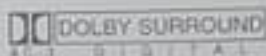
デジタル音声、アナログ音声それぞれに異なる内容の音声記録されています。



デジタル音声、アナログ音声を切り換えて、それぞれの音声をお楽しみいただけます。

ドルビーサラウンドAC-3ディスク

映画館用サラウンドシステム (Surround Digital) の6チャンネル分の音声をAC-3で圧縮されたデジタルデータを従来のアナログチャンネル (Rチャンネル) に記録されています。



ドルビーサラウンドAC-3ディスクを楽しむには、本機のAC-3 RF出力端子をアンプやプロセッサのAC-3 RF入力へ接続する必要があります。

グラフィックスディスク

映像や音声信号以外にサブコードというデータが記録されています。このデータにグラフィックスが記録されています。

LDグラフィックスディスク サブコードに映画の社員や歌の歌詞などが記録されています。

ディスクのジャケット、またはレーベルに右のマークが表示されています。



ディスクのジャケット、またはレーベルに右のマークが表示されています。



LD 用語

チャプターナンバー

ディスクをいくつかのセクションで区切り、番号付けしたナンバーです。本の「章」番号に相当します。このチャプターナンバーが記録されている場合は希望のセクションを素早く見つけるチャプターサーチなどの操作ができます。

- ディスクによってはチャプターナンバーが記録されていないものもあります。

フレームナンバー

標準ディスクCAVのすべての画面 (フレーム) ごとに記録された番号です。希望のシーンをこのフレームナンバーで探すフレームサーチなどの操作ができます。

タイムナンバー

長時間ディスクCLVに記録された、ディスクの最初からの再生経過時間です。CLVでは、希望のシーンをタイムナンバーで探すタイムナンバーサーチなどの操作ができます。

フィールド

レーザーディスクから出力される映像は、1秒間に30コマの画で構成されています。この1コマをフレームと言います。さらにフレームは、2つの画で構成されており、これをフィールドと呼びます。つまり映像は、1秒間当たり60フィールドで構成されていることとなります。

TOC

一部のLDディスクにはTOC (Table Of Contents) という情報がディスクの始めの部分に記録されています。その名のように、本の目次に相当し、曲数や演奏時間の情報が入っています。

保証とアフターサービス

保証書（別添）

保証書は必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取り、内容をよく読んで大切に保管してください。

保証期間はご購入日から1年間です。

当社はこの製品の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談は

お買い上げの販売店または、最寄りの当社サービスステーションをご利用ください。

所在地、電話番号は別添の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

修理を依頼されるときは

39～41 ページに従って調べていただき、なお異常のあるときは、ご使用を中止し、サービス番号（エラー表示）が表示されているときは、それをメモして、必ず電源プラグを抜いてから、お買上の販売店または、お近くのバイオニアサービスステーションにご連絡ください。

連絡していただきたい内容について：

- ・品名 レーザーディスクプレーヤー
- ・品番 LD-S9
- ・お買上げ日
- ・故障の状況「できるだけ具体的に」「ディスクのタイトル」「サービス番号」
- ・ご住所 「付近の目印も合わせてお知らせください」
- ・お名前
- ・電話番号
- ・訪問ご希望日

保証期間中は：

修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理致します。

保証期間が過ぎているときは：

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

お客様メモ

- おぼえのため記入されますと便利です。

ご購入店名	住所 電話番号	お近くの ご相談窓口	住所 電話番号
ご購入年月日	年 月 日	型番	この機種は LD-S9 です。

仕様

一般

型式	レーザーディスクシステム
使用レーザー	半導体レーザー：波長780 nm
電源	AC 100 V, 50/60Hz
消費電力	38 W
重量	10.2 kg
外形寸法	440 (幅) X 432 (奥行) X 144 (高さ) mm
許容動作温度	+5℃ ~ +35℃
許容動作湿度	85%以下 (結露のないこと)

使用ディスク

<レーザーディスク>

標準ディスク (CAV) 最大再生時間

30 cm	両面最大1時間再生可
20 cm	両面最大28分再生可 片面最大14分再生可

長時間ディスク (CLV) 最大再生時間

30 cm	両面最大2時間再生可
20 cm	両面最大40分再生可 片面最大20分再生可

回転数

30 cm標準ディスク	1800 rpm
30 cm長時間ディスク	1800 rpm ~ 600 rpm

映像出力<2系統>

出力レベル	1 Vp-p (75 Ω負荷時, 同期負)
出力端子	ピンジャック

S映像出力<2系統>

Y出力レベル	1 Vp-p (75 Ω)
C出力レベル	286 mVp-p (75 Ω)
出力端子	S端子

音声出力<2系統>

出力レベル	
アナログ音声出力時	200 mV rms (1 kHz, 40%)
デジタル音声出力時	200 mV rms (1 kHz, -20 dB)
チャンネル数	2チャンネル

デジタル音声特性

周波数特性	4 Hz ~ 20 kHz
SN比	117 dB (LDはEIAJに準拠)
ダイナミックレンジ	99 dB (LDはEIAJに準拠)
全高調波ひずみ率	0.0017%
ワウ・フラッター	測定限界 (±0.001% WPEAK) 以下 (LDはEIAJに準拠)

その他の端子

コントロール入力/出力 (後面)	ミニジャック (3.5 φ)
光デジタル出力	光コネクタ
同軸デジタル出力	ピンジャック
AC-3 RF出力	ピンジャック

付属品

リモコン	1
単4形乾電池 (R03)	2
オーディオコード	1
ビデオコード	1
Sビデオコード	1
取扱説明書, 保証書, ご相談窓口・修理窓口のご案内, 安全上のご注意	各1

お客様ご相談窓口（修理に関しては別添「ご相談窓口・修理窓口のご案内」参照）

お客様相談センター	TEL 03-3491-8181			
技術相談窓口	○札幌	TEL 011-644-4779	○大阪	TEL 06-353-3705
	○仙台	TEL 022-375-4417	○広島	TEL 082-228-2239
	○名古屋	TEL 052-532-1141	○福岡	TEL 092-441-8076

愛情点検



長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。こんな症状はありませんか

- 電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。
- 電源コードにさけめやひび割れがある。
- 電気が入ったり切れたりする。
- 本体から異常な音、熱、臭いがする。



すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、故障や事故防止のため電気店または当社サービスステーションに点検（有料）をご依頼ください。



この取扱説明書はエコマーク認定の再生紙を使用しています。

- 本機の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

LaserDisc レーザーディスクは、パイオニアの商標です。